

五四、四四三、〇〇〇フランク 縣費ノ補助金

六、五八四、〇〇〇フランク 中央政府ノ補助金

若レ賦役ヲ廢セント欲セハ副税トレテ凡ツ十八「サンチーム」ヲ以テ直税ニ附加セサルヘカラス是レ國民ニアリテハ遙ニ現今ノ賦役ヨリ重レト考ル所ノ負擔ナルヘシ抑モ村道ハ國家繁榮ノ重要ナル財源ニシテ其發達如何ハ實ニ國家ノ盛衰ニ關スル所ナルヲ忘ルヘカラス佛國ニ於テハ千八百七十五年十二月三十一日ニ當リ村道ノ使用セラル、者實ニ三十六萬八千「キロメートル」アリ十年若クハ十五年ヲ出スシテ其延長ハ二倍若クハ三倍ニ至ルヘク其要スル所ノ費ハ數十億「フランク」ニ達スヘシ然ラハ則チ賦役税ハ之ヲ廢スヘカラス只宜ク之カ改良ヲ謀ルヘキナリ被稅者ニアリテハ忽チ其要求セラル、所ノ勞費ノ結果如何ヲ見ルヲ得、今白耳義ノ例ニ倣ヒ大財產家及其家僕馬車ニ課

スルニ小財產家ニ課スル勞力ノ倍日數ヲ課スルモ可ナラン如何トナレハ馬車家僕等ノ數ハ常ニ精密ニ土地ノ歲入ニ比例スル者ニアラサレハナリ

賦役税ヲ廢スルニ賦役勞力ノ效驗ハ遙ニ勞銀ヲ與ル勞力ニ及ハサルヲ以テスヘシ或ハ賦役勞力ノ效驗ヲ算シテ通例一日勞力ノ三分ノ二ニ當ル者ナリト稱セリ是レ賦役勞力ノ欠點タルヤ疑ヲ容レス然ト雖モ此勞力ハ被稅者カ最モ閑暇ノ時ニシテ蓋シ其時間ハ所有ノ車馬ヲ用ル所ナキ場合ニ於テ之ヲ供給スヘキヲ以テ其不便ハ多少償補スルヲ得ヘシ又國家富饒ニシテ耕殖大ニ進歩シ資本裕カナル者ニアリテハ被稅者ハ自ラ他事ノ爲メニ勞働ヲ執リ若クハ其家僕車馬ヲ以テ他事ニ使用スルヲ欲セスシテ次第ニ代金ヲ以テ賦役税ヲ拂フ者ヲ増加スヘキハ疑ヲ容レサルナリ之ヲ約言スレハ都テ是等ノ不便アルニ拘

ハラス道路ノ修築スヘキ者夥多ナル間ハ村道改良發達ノ爲メニ賦役
 税ノ法ハ方今ノ如ク勞力又ハ代金ヲ以テスル隨意ノ制ニ由リ之ヲ存
 スルノ良キニ如カサルカ如シ
 官府ノ文書ニ據テ之ヲ見レハ勞力ノ賦役税ヲ撰フ者百人ニ付七十人
 ノ割合ニシテ山地方ノ十二縣ニ於テハ殆ト皆勞力ヲ以テ賦役税ヲ辨
 セリ又縣會ニ於テ定メタル税率ニ據レハ賦役一日ニ當ル代金ノ平均
 ハ一「フランク」二十五「サントーム」ナリ
 千八百七十五年賦役税ノ惣價格ハ五千六百六十六萬三千「フランク」ニ
 シテ眞ニ勞力ヲ以テシタルハ三千四百萬「フランク」ニシテ二千二百五
 十萬「フランク」ハ代金ヲ以テ納メタル者ナリ諸縣會ハ近年賦役税ヲ廢
 シテ副税ヲ以テ之ニ代ルニ至ルヘキ法律ノ案ヲ議シタルニ七十一縣
 會ハ之ヲ非決シ其案ニ同意ヲ表シタルハ僅ニ十三縣ノミ

次テ佛國市邑税ノ最も重要ニシテ最も非難ヲ免レサル所ノ「オクトロ
 リ」(市邑入市税)ト稱スル消費税ヲ論セシヂ「ユーカンズ」氏ノ辨書ニ據レ
 ハ該税ノ名ハ晚世維甸語ノ「オットリニム」リセンチア、ザハサロ、ダ「ヨ
 リ」來ル者ニシテ「オクトロ」リ「税」(市邑入市税)ヲ以テ久ク已ニ主權ノ一部
 ヲ分與シタル者トナセシヲ見ルヘシ又古代ノ法令ヲ見ルニ市邑ニ許
 スニ消費税ヲ課スルヲ以テ「君」主ハ其若干分ヲ徵收セシ「ア」リ例
 ヘハ千三百二十三年ニ於テハ其三分ノ二ヲ徵收シ千六百六十三年ニ
 ハ其半額ヲ徵收セリ「デ」バリ「ユー」氏ノ租稅論第四卷第九葉ヲ見ルヘシ
 第十七世紀ニ方テハ市府ノ入市税ノ半額ヲ以テ中央政府ニ分與スル
 ヲ常トセリ中央政府ト市邑ノ間ニ右ノ關係ヲ有スル遺蹟ハ當代ニ至
 ルマテ之ヲ存シ第十九世紀ノ初メニ於テハ市邑入市税ノ純收入額十
 分ノ一ヲ以テ國庫ニ收入スヘキモノトセリ其之ヲ廢シタルハ實ニ千

八百五十二年ノ豫算ヲ定メタル時ニアリ以太利ニ於テハ市邑入市税ノ大部分即チ凡ソ三分ノ一ヲ以テ中央政府ニ徴ス
 千七百九十一年佛國ノ委員惣會ハ一切市府ノ輸入ニ課シタル租税ヲ廢セリ然ルニ是只ニ數年間停止シタルニ過キスシテ指揮官政府ハ不幸ニモ此舊税ヲ再興スルノ議ヲ發シ革命ノ第七年一月ノ法律ヲ以テ巴里府ニ於テ再ハ入市税ヲ設置シ「ミユニバル、エ、デ、ピアン、フ、エ、ト、ザ、ン、ス」ト稱セリ革命ノ第八年三月一般ノ法律ヲ以テ一府ニシテ「カン、ト、ン」ヲナス者ハ地方間税ヲ設置スルヲ得セシム此ニ於テ諸市邑ハ爭フテ入市税ヲ興シ二年ヲ出スシテ佛國中市邑入市税ヲ課スル者二百九十三ニ至リ爾後其數益増加シ革命ノ十三年ニ方テハ佛國ハ實ニ百八縣ニシテ市邑入市税ヲ行フ者惣數三千二百六十二ニ達セリ然ルニ佛國ハ其土地ヲ失ヒタルト或ル市邑ニ於テ入市税ヲ廢シタルトニ

由リ其數凡ソ半ヲ減セリ千八百六十二年市邑入市税ノ惣收入ハ諸縣ノ市邑及巴里府ヲ合セテ一億五千七百萬「フランク」千八百七十五年ニハ市邑入市税ヲ行フ所ノ市邑ハ巴里府ヲ合セテ千五百二十六其收入ハ二億三千五百萬「フランク」ニ達セリ

抑モ該税ハ生産物ノ運轉交換ヲ妨ル者ニシテ其性質ニ於テハ嫌フヘキモノトス又弊害ノ其中ニ附帶シテ到底之ヲ芟除スヘカラサルモノアリ而シテ其負擔ハ決シテ平均ヲ得ルモノニアラス故ニ該税ノ負擔ニ堪サルニ至ラシメサルカ爲メ制限ヲ嚴守シテ其外ニ馳ヒサランヲ力メサルヘカラス佛國ノ立法官モ亦此點ニ於テ從來注意ヲ欠カサルナリ

元來市邑入市税ヲ課スルハ如何ナル物品ニ於テスヘキカヲ決スルハ至難ノ業トス實ニ是レ臆想ヲ以テ斷定スルニ過キス如何トナレハ此

物品ニ課セスレテ彼物品ニ課スルハ物品ノ性質ニ存スルモノニアラ
サレハナリ千八百十四年ノ法令ヲ以テ佛國政府ハ穀物麥粉菓物(小麦)
牛乳野菜其他數種ノ雜品ニ入市稅ヲ課スルヲ禁シ該稅ヲ課スルヲ得
ヘキ物品ヲ分テ五級トセリ

- 第一 飲料品及流動物
- 第二 食品
- 第三 薪炭
- 第四 秣草
- 第五 物品

右ノ分級法ハ今ニ至テ尙ホ存シ其名ハ現ニ行ハルヘキモノナリト雖
モ其實ハ此分級ヲ行ハサルモ可ナル者ナリ故ニ法律ヲ以テ模本ヲ定
メタルカ如キ者ニシテ行政府地方廳ハ必スシモ之ヲ遵守スルヲ要セ

サル者トス其稅率表ニ至テハ只物品ヲ歷舉シ其間連絡スル所ナク市
邑ノ偶然決定スル所若クハ「イロハ順」ニ由テ對比列叙スルヲ得ヘシ加
之ナラス第五項ノ物品ト稱スル者ハ果シテ如何ナル者カ明知スルヲ
得サル所ナリ其制限區域ノ模糊タル市邑ヲシテ不測ノ淵ニ陷ラシム
ルニ至ラントス豈ニ危カラスヤ

千八百十六年四月二十六日ノ法律ハ千八百十四年ノ法令ニ比スレハ
一層寬濶ニシテ地方ノ消費品ニ係ル物品ハ市邑入市稅ヲ課スルヲ
得セシメ敢テ之カ制限ヲ定メス故ニ此法律ニ據レハ麥粉及麥ノ如キ
ニ至ルマテ市邑入市稅ヲ課スルヲ得ル者ト考フルニ至レリ是ニ於テ
諸市邑殊ニ帝政ノ時巴里府ノ如キハ製造シテ府外ニ出ダシ一般ノ貿
易品トナスカ爲メニ製造所ニ於テ使用スル所ノ物品ニ課スルニ市邑
入市稅ヲ以テセント贖セシマリ此ノ如ク法律ヲ解釋スルハ嚴刻ニ

過ル者ニシテ且ツ弊害ヲ免レサルヤ明カナリト雖モ果シテ之ヲ以テ法律ニ違フ者ナリト云フヲ得ヘキヤ否ヤ甚タ疑フヘキ者アリ此ノ如キ不便ヲ避ルカ爲メニ更ニ一令ヲ發シテ一般ノ貿易ニ供スル生産品ノ製造ニ使用スル材料ニ市邑入市税ヲ課スルヲ禁セリ然ルニ此一令微リセハ石炭曹達其他一切ノ粗生品ニ該税ヲ課スルコトヲ得ヘキナリ行政上ノ決議及布達ヲ以テ左ノ物品ニ市邑税ヲ課セサル者トセリ

- 第一 官船ノ消費品
 - 第二 火藥製造ニ用ル材料
 - 第三 政府ノ印刷物
 - 第四 藥種
 - 第五 鰵魚
- 是等ノ制限外ニ於テハ市邑入市税ヲ課スル者一定ナラス市邑各其意

ニ隨テ徵課シ實ニ不規則ヲ免レサルモノアリ元來砂糖咖啡ノ如キ已ニ關稅ヲ課レタル物品ハ習慣ニ由テ市邑入市税ヲ課セサルヲ通例ト爲スト雖モ是只ニ習慣ヨリスルニ過キス故ニ砂糖ノ如キハ佛國ノ中部及南部ニ於テハ時トレテ之ニ税スル者アリ
一般ノ主義ニ於テハ市邑入市税ハ單ニ歲入ヲ得ルヲ目的トスル者ニシテ決シテ保護ノ性質ヲ有スヘキモノニアラス故ニ市邑及其近傍ノ生産ヲシテ他地方ノ生産ノ競争ヲ避ケシメント欲スル目的若クハ效驗ヲ有セサルナリ然ルニ某市府ニ於テハ自己ノ生産ヲ保護セント欲シテ不同ノ税率ヲ設ル者アリ時トレテ參事院ハ人造ノ秣草ト天造ノ秣草ト牛ト牝牛ト甲子ノ子羊ト乙子ノ子羊甲地產ノ葡萄酒ト乙地產ノ葡萄酒ト税率ヲ異ニスル者ヲ斥ケ以テ其弊害ヲ除カンコトヲ欲セリト雖モ是レ只ニ弊害ヲ減少スルヲ得ルモ決シテ之ヲ芟除スルヲ得ス此

弊害タル入市税ノ制ト附帯シタル者ニシテ此制ヲ廢スルニアラサレハ其弊ヲ除クヲ得サルナリ抑モ地方ノ情勢ヲ見ルニ各々自己ノ生産ヲ盛ニスルヲ首トシ他地方ヨリ到ル所ノ類似品若クハ代用品ニ税スルヲ力メ南部地方ノ如キハ麥酒ニ重課シテ葡萄酒ニ輕課シ各地方多クハ石炭ニ重課シテ薪木ノ如キハ殆ト税セサル者アリ若クハ相互税ヲ課スル者アリ由是觀之ハ其方法ノ如何ヲ問ハス市邑入市税ハ常ニ内地ノ關稅タルヲ免レサルナリ

本文ノ不便ハ殊ニ以太利ニ於テ甚キ者ノ如シ羅馬府ニ於ル財政週報千八百七十七年六月二十三日刊行ラスメーションフィナシエールノ通信ニ據レハ以太利ノ或ル市邑ニ於テハ石炭一トシニ付市邑入市税十フランクヲ課シ(尤モ石炭ハ一切關稅ヲ課セス)他ノ市邑ニ於テハ家具師ノ如キ其地方ノ營業ヲ保護スルカ爲メニ近傍ノ市邑ヨ

リ來ル所ノ家具ニ從價稅二割ヲ課スト云フ

飲料品ハ通例市邑入市税ヲ課スル所ノ者ニシテ收入最モ大ナル者トス已ニ前篇ニ陳セシ如ク中央政府ハ國庫ノ爲メニ入市税ヲ課ス之ヲ以テ立法官ハ飲料品ニ課スル市邑入市税ニ制限ヲ置キ千八百十六年ノ法律ヲ以テ市邑ニ於テ飲料品ニ課スル所ノ租稅ハ中央政府ノ徵課スル所ニ過クヘカフストセリ然レトモ同法律ヲ以テ王令ニ依リ此規則ヲ超ルヲ得ヘキ者トセリ千八百五十二年國庫ニ徵收スル所ノ入市税ヲ減シテ半トナシ爲メニ市府ニ徵收スル所ノ入市税モ亦減セサルヘカラサルニ至レリ然ルニ千八百五十四年ノ財政法律ヲ以テ人口四千以上ノ市府ニ於テ徵收スル所ノ飲料品ノ市邑入市税ハ國庫ニ徵收スル入市税ノ倍額ヲ以テ最高度ト定メ市邑入市税ノ形狀再ヒ舊ニ復セリ然ルニ此最高額ヲ超過セント欲セハ特ニ法律ヲ以テ定メサルヘ

カラサル者トセリ
 奸曲ノ弊ヲ防禦スルノ意ヲ以テ千八百十六年ノ法律ハ大市府ノ外部ニ屬スル市邑ハ假令之ヲ欲セサルモ市邑入市税ヲ課スルヲ得ヘク其區域内ニ於テ徵收シタル市邑入市税ハ各自ノ市邑庫ニ送付スル者トセリ是レ財政法ノ不規則不權衡ヲ免レサル者ト云フヘシ如何トナレハ此法律タル千八百十四年ノ法令(今日ハ廢止セラレタル者)ニ由テ定メラレタル所ニ違ヒ全ク市邑ノ本部ヨリ隔離シタル附屬村落ニ市邑入市税ヲ課スルヲ得レハナリ
 凡ツ市邑ハ財源ノ不足ニ會スルニアラサレハ市邑入市税ニ取ルヲ得サル者トス千八百十六年ノ法律ニ據レハ被税品税率表徵收制限ハ皆市邑會ニ於テ之ヲ議定シ上司ハ之ヲ承認シ若クハ修正ヲ加フルヲ得ルモ新税ヲ設置スルヲ得ス縣令ハ其意見ヲ附シ市邑會ノ議決ヲ

以テ内務卿ニ送付シ内務卿ハ之ヲ取テ參事院ニ付シ參事院ハ内務部及財務部ニ於テ之ヲ審按ス今此ニ市邑入市税ノ允可ヲ得ルニ至ルマテノ手續ヲ詳述スルハ無益ニ似タリ故ニ贅セスト雖モ往時ハ該稅廢止ノ時モ亦同一ノ手續ヲ要セリ
 千八百十七年ノ法律ニ於テ市邑會ノ規則ヲ修正シ其執行毎ニ上司ノ決裁ヲ仰クヘキ者ハ左ノ如シ

- 第一 市邑入市税ナキ市邑ニ於テ該稅ヲ設置スルコト
- 第二 現行區域ヲ改正スルコト
- 第三 一般ノ稅率表ニ包含セサル物品ニ租稅ヲ新置若クハ再置スルコト
- 第四 一般ノ稅率表ニ依テ定メラレタル最高度ヲ超過スル所ノ租稅ヲ新置若クハ再置スルコト

之ニ反シテ縣令ノ認可ニ由テ市邑會ノ決議ヲ執行スルヲ得ル者ハ左ノ如シ

- 第一 現行副税ヲ延期スルヲ
- 第二 一般ノ税率表ヲ以テ定メラレタル最高度以内ニ於テ一「デシ

一ム」以上正税ヲ増課スルヲ

市邑會ノ決議ニ由リ直ニ執行スルヲ得ル者ハ左ノ如シ但縣令ノ認可ヲ要セサルモ縣令ハ之カ執行ヲ禁止スルノ權アル者トス

- 第一 市邑入市税ヲ廢止シ若クハ之ヲ輕減スルヲ
- 第二 市邑入市税ノ正税ヲ五年以内延期スルヲ
- 第三 五年以内一「デシ一ム」以下ノ租税ヲ増課スルヲ

市邑長ト市邑會ト意見ヲ異ニスル場合ニ於テハ豫メ縣令ノ認可ヲ得ヘキモノトス國庫ニ徵收スル入市税ノ倍額以上飲料品ニ租税ヲ附加

スルニ至テハ尙ホ特ニ法律上ノ許可ヲ得サルヘカラサル者トス

市邑入市税ノ組織ヲ詳述スルノ要ナキヲ以テ此ニ深ク論及セサルヘシ抑モ該税ハ獨リ其地方ノ消費品ニ課スルヲ以テ其地方ノ消費ニ供セサル物品ノ通過若クハ滞在ヲ便ニスルカ爲メ通過免許狀(パスデブ)及荷物藏預ケノ方法ヲ行フ者トス

第十九世紀ノ初年以降市邑入市税ノ數殊ニ收入ノ増加ハ頗ル著ルシ請フ佛國政府ノ文書ニ據テ之ヲ示サン

年代	市邑入市税ヲ課スル市府ノ數	市邑入市税ヲ課スル府内ノ人口	市邑入市税純收入	徵收費	人口一人ニ當ル税額	物收入百フランクニ對スル徵收費
一八三三	一、四三四	五、九七、〇〇〇	四、四六、七〇〇	一、七、九七、〇〇〇	一〇、三三	二七、八〇
一八三三	一、四四八	六、三〇六、三七八	五、〇、一九〇〇〇	一、五九、一八、〇〇〇	一〇、四六	二四、一四
一八四三	一、四六七	七、二九六、九三二	六、五〇、三七、〇〇〇	一、八、二七、〇〇〇	一一、四〇	二二、八〇

右ノ表ハ種々ノ點ニ於テ頗ル見ルヘキ者アリテ精密ニ研究スルニ足ルモノナリ右五十年間ニ市邑入市税ヲ課スル市邑ノ數ハ増加大ナラスト雖モ常ニ間斷ナク増加セリ而シテ其市邑ノ人口ハ増加此ヨリ大ニシテ初年ハ六百萬人ニ足ラサルニ末年ニハ千零五十萬人ニ達セリ是レ以テ市府ノ發達セシヲ見ルヘキモノニシテ此格段ナル租税ヲ負擔スル者ハ佛國人民ノ凡ツ三分ノ一ニ居ル者ナリ此年間ニ於テ増加

一八五三	一四七五	七三九、七八二	八一六〇五、〇〇〇	一八、八二八、〇〇〇	一三、	一六、	一五、	一七
一八六二	一五二〇	九五八、二、四四四	二四、二二五、〇〇〇	一六、二二四、〇〇〇	一六、	四三、	一〇、	三〇
一八六六	一五三〇	一〇、二二〇、三一一	二七、六一三、〇〇〇	一五、七四三、〇〇〇	一八、	九六、	八、	三二
一八七一	一五二〇	一〇、三九七、〇三三	二四、〇〇一、六〇〇	一六、四七四、〇〇〇	一五、	〇五、	一〇、	三四
一八七二	一五〇八	一〇、四六二、六七〇	二八、九三三、〇〇〇	一七、六〇七、〇〇〇	一八、	七一、	八、	八三
一八七五	一五二六	一〇、五五五、一八三	二五、七〇八、〇〇〇	一九、四四七、〇〇〇	二二、	四三、	八、	二七

ノ著ルキ者ヲ市邑入市税ノ收入トナス千八百七十五年該税ノ收入高ハ千八百二十三年ヨリ多キヲ殆ト五倍ニ達セリ此増加ハ一般間税ノ増進ニ伴ヒタル者ニシテ其異ナル者ハ市邑入市税ニ於テハ之ヲ負擔スル人口ヲ増加シタルヲ以テ居民一人ニ當ル負擔ハ全ク倍スルニ至ラサリシニアリ實ニ千八百七十五年ニ於テハ居民一人ニ當ル平均負擔ハ二十二フランシテ四十三サンチムナリ故ニ一家四口トスレハ一家族ノ負擔スル所ハ一ヶ年九十フランクトナルヘシ余輩ハ以爲ラシ假令市邑入市税ノ多クハ被税品ノ價格ニ比例セス又之ヲ課スルハ皆普通ノ消費品ナリト雖モ細民ノ消費稀少ナル物品ニ係ル者ナキニアラス然ラハ則チ市邑入市税ハ頗ル分頭税ニ近シト雖モ純然タル分頭税ナリト税スルヲ得サルヘシ

市邑入市税ノ收入ハ五倍ノ増加ニ至リシモ其徴收費ニ至テハ千八百

二十三年以降殆ト増減ナク千八百二十三年ニハ千七百十九萬七千「フランク」ニシテ千八百四十三年ニハ増シテ千八百十二萬七千「フランク」トナリ千八百七十二年ニハ再ヒ減シテ千七百六十萬七千「フランク」トナリ千八百七十五年ニハ又増シテ千九百四十四萬七千「フランク」トナリシニ過キス之ヲ以テ惣收入額ニ對スル徵收費ノ割合ハ著ルシク減少シ千八百二十三年ニハ百「フランク」ニ付二十七「フランク」八十「サンチム」ナリシモ千八百七十二年ニハ八「フランク」八十三「サンチム」千八百七十五年ニハ八「フランク」二十七「サンチム」トナレリ右ノ比例ハ平均ニ過キサルヲ以テ其實頗ル大ナルヤ疑ヲ容レス現ニ諸大府ニ於テハ徵收費ノ比例小ニシテ巴黎府ノ如キハ百分ノ五ヲ超過セス是等ノ事實ニ由テ之ヲ見レハ世ノ市邑入市稅ヲ論難スル者カ其徵收費ノ多キヲ以テ論旨トスル如キハ今日ニアリテハ往時ノ如ク適切ナルヲ得

サルヘシ千八百二十年ヨリ千八百三十年ニ至ルノ間徵收費ノ平均二割五分以上ニアルニ當テ著述シタル經濟家ノ如キハ徵收費ノ多キヲ以テ非難ノ論旨トナスヲ得タリシモ今日ノ如ク其平均九分以下ニアリテハ大ニ其勢力ヲ失ヘリト云フヘシ尤モ此比例ハ單ニ平均ニ過キサルヲ以テ小市邑ノ入市稅ニ至テハ蓋シ其徵收費二割乃至二割五分ニ達スル者アルヘシ後章ニ示ス所ノ表ニ據レハ大都府ノ如キモ時トシテハ徵收費ノ頗ル大ナル者アリ即チポルドー府ニ於テハ市邑入市稅ノ徵收費一割六分ニ過キマルセーユ港ニ於テハ一割四分ニ過キタリ

佛國統計表ニ據リ千八百七十五年ニ巴黎府及他ノ市邑ニ於テ市邑入市稅ヲ課シタル物品ノ分類ヲ示スヲ左ノ如シ

被税品	總收入		人口一人ニ當ル租税ノ負擔	
	巴里府	他ノ市邑	巴里府	他ノ市邑
葡萄酒	四八八九二、二五六	二五、五三三、六一九	二、四	三、〇〇
林檎酒	四三七、五三四	二、三六、〇八二	〇、二四	〇、二七
及蜂蜜水				
酒精	八三三、六三二	六、七六三、〇三三	四、二〇	七、七
諸他ノ流動物	一一七、六九三	一一、四六二、〇五〇	五、六〇	一一、三三
食品	二二、三四六、五二二	四、一四一、七六九	二、二〇	四、七五
薪炭	一〇、八一八、二五六	一一、八八一、七三九	五、五〇	一、三七
秣草	三、九五九、五二五	七、二七、二四一	二、〇〇	〇、八二
材料	七、八八九、九五四	九、九〇九、〇六二	四、〇〇	一、一五
諸品	三、八四六、八六二	一、五六九、六五六	二、〇〇	〇、一九
合計	一一八、二四三、一五四	一一七、七〇五、一五一	五九、二四	一三、六四

右ノ表ニ於テ第一ニ余輩ノ注意ヲ惹起ス者ハ巴里府ノ租税ノ重キニ
 アリ該府ノ市邑入市税ハ千八百七十五年ニ於テ平均一人ニ付五十九
 フランク二十四「サンチム」ニシテ中央政府ノ租税及他ノ地方税ヲ算
 セサルニ一家四口ノ家族ニテハ一ケ年二百三十七フランクニ當ルモ
 ノナリ若シ市邑入市税ニシテ尙ホ少シク財產ノ貧富ニ應スルモノナ
 ラシメハ右ノ額ハ敢テ非常ニ重キ者ニアラサルヘレト雖モ表中ニ見
 ルカ如ク其課税スル所ノ物品ハ殆ト皆飲食品ニシテ巴里府ニ於テハ
 千八百七十五年市邑入市税ノ收入惣額一億千八百萬フランクノ中飲
 食品ヨリ收入シタル者大約九千百萬フランクアリ如何トナレハ諸他
 ノ流動物ト稱スル一項ハ燈油ノ外皆食用若クハ貯藏用ノ飲料品ナレ
 ハナリ而シテ葡萄酒ヨリ收入シタル者獨リ惣收入額ノ四割餘ニ達セ
 リ元來該府ニ於テハ葡萄酒ニ市邑入市税ヲ課スルニ其品位ノ如何ヲ

問ハス樽入葡萄酒ニハ皆同一ノ税ヲ課シ壺入葡萄酒獨リ増税ヲ課スルヲ法トス千八百七十五年ニ於テハ葡萄酒ノ巴里府ニ輸入セシレタル者四百三萬二千三百二十六「エクトリートル」ニシテ壺入葡萄酒ハ其中僅ニ一萬六千七百二十八「エクトリートル」ニ過キス巴里府ニ於テ葡萄酒ニ課スル所ノ市邑入市税ヲ以テ中央政府ノ爲メニ葡萄酒ニ徵課スル所ノ他ノ諸税ニ合算スレハ實ニ葡萄酒生産地ニ於テスル所ノ普通品ノ賣價ニ超過ス又巴里府ニ於テ酒精ニ課スル市邑入市税ノ收入ハ葡萄酒ニ課シタル該税收入高ノ六分一ヲ超エサルヲ見ルヘシ若シ市邑入市税ノ負擔ヲ以テ居民ノ諸級ニ分賦シ之カ輕重ヲ見ント欲セハ先ツ普通ノ消費ニアラサル物品ニ課スル所ノ者即チ材料ニ課スル者收入高七百八十八萬九千「フランク」秣草ニ課スル者收入高三百九十五萬九千「フランク」諸品ニ課スル者收入高三百八十四萬六千「フ

ランク」又薪炭ニ課スル者收入高千八十一萬八千五百五十六「フランク」食品ニ課スル者收入高二千二百三十四萬六千「フランク」ヲ扣除セサルヘカラス是等ノ物品ニ課スル者ハ勿論財産ノ貧富ニ應スルニアラスト雖モ多少貧富ノ度ト關係ナキニアラス例ヘハ材料ノ如キハ巨大ノ家屋ニアリテハ該税ヲ拂フコト敷戸ノ勞力者ヲ起臥セシムル家屋ニ於ル材料ヨリ多ク富民ノ馬ヲ有スル者ハ秣草ニ該税ヲ拂フモ貧民ノ馬ヲ有セサル者ハ物品若クハ人身運搬賃ノ騰貴ニ由リ該税ノ微分ヲ負擔スルニ過キス食品ニ至テハ屠者ノ肉ハ該税ヲ負擔スルコト甚々輕ク麥粉ニハ全ク該税ナキヲ以テ市邑入市税ヲ重課スル者ハ魚雞卵「バタ」鳥肉、菓子、菌等ノ如キ重ニ中民以上ノ消費ニ係ル所ノ物品少ナカラス然ラハ則チ是等ノ物品ニ課スル所ノ租税ハ決シテ分頭税ト稱スルヲ得サルナリ薪炭ニ課スル者モ亦然リ尤モ貧民ニ至ルマテ火ヲ要セサル者

ナレト雖モ富民ハ廣潤ノ家室ヲ有シ一時ニ多數ノ室ニ温氣ヲ取ルヲ以テ薪炭ノ税ヲ負擔スルヲ貧民若クハ勞力者ヨリモ稍々多シ若シ是等ノ分頭税ニ均シカラサル租税ノ收入高ヲ合算セハ巴里府ニ於テ四十九百萬フランクヲ得ヘシ即チ居民一人ニ付平均二十五フランクニ當ル然ルニ此種ノ税ハ富民ノ負擔スル所モ稍々多キヲ以テ勞力者ノ徒ニ至テハ一人ニ付該税ヲ負擔スル平均高ノ半額即チ十二フランク五十サンチムナリト云フモ敢テ妨ケナカルヘシ之ニ反シテ葡萄酒ニ課スル者收入高四千八百八十九萬二千フランク林檎酒梨酒ニ課スル者收入高四十三萬七千フランク酒精ニ課スル者收入高三十三萬六千フランク諸他ノ流動物ニ課スル者收入高千百七十一萬六千フランクノ如キハ毫モ被税者ノ貧富ト關係ヲ有セサル者ニシテ與ノ分頭税ト云フヘキ者ナリ而シテ此種類ニ屬スル租税ノ收

入高六千九百萬フランクアリ今之ヲ居民ニ平分スレハ一人ニ付三十五フランクニ當ル然ラハ則チ巴里府勞力者ノ徒ハ食品薪炭等ノ爲メニ拂フ所ノ十二フランク五十サンチムノ外尙ホ通常消費スル所ノ飲料品若クハ流動物ノ爲メニ人毎ニ市邑入市税三十五フランクヲ拂フモノニシテ市邑入市税ノ項ニ於テ合計四十七フランク五十サンチムヲ拂フ者ナリ即チ一家四口ノ家族ナレハ一ケ年百九十フランクヲ拂フ者トナル千八百七十八年ニ於テハ該府ノ市邑入市税收入ノ額一億二千八百萬フランクナルシヲ以テ之ヲ見レハ右ノ負擔額ハ一層増加セリト云フヘシ

右ノ如ク市邑入市税ニ於テ富民ノ負擔スル所日傭勞力者ノ輩ニ過ルヲ僅小ナルヲ以テ之ヲ見レハ該税ノ不正ナルヲ知ルヘキナリ而シテ其結果タル居民ノ一部分ハ單ニ市邑入市税ト中央政府ニ徴收スル所

ノ入市税アルカ爲メニ物價ヲ倍加シテ其貯蓄スルヲ得ヘキ金錢ヲ剝奪セラル、ニ至ル彼ノ巴里府勞力者輩ハ何ヲ以テ葡萄酒ヲ用ル、少ナク外國ノ飲料品ヲ以テ代用トナス、多キヤ又巴里府ノ獨立ナル婦人勞力者ハ何ヲ以テ其健全ヲ保持スルカ爲メニ葡萄酒ヲ用ヒサルヤヲ尋ルニ他ナシ市邑入市税及諸他ノ租税ノ爲メニ葡萄酒一「リートル」ニ付價二十「サンチム」ヲ騰貴スルニ由ル巴里府ニ於テ葡萄酒ノ消費高ハ人口一人ニ付百八十「リートル」ナリ然ルニ佛國一般ノ統計ニ據レハ他ノセーレン縣ノ市邑入市税ヲ行フ諸邑ニ於テハ三百一「リートル」ニ上リセーレン、エ、ワース縣ノ市邑入市税ヲ行フ諸邑ニ於テハ二百六十九「リートル」ルワール縣ノ市邑入市税ヲ行フ諸邑ニ於テハ二百六十八「リートル」ニ達セリ其市邑入市税ヲ行フ諸邑ノ葡萄酒平均ノ消費高巴里ノ平均消費高ニ超ユル者實ニ二十五縣アリ是レ巴里府ノ税ハ非常ニ

重ク他ノ諸縣ハ然ラサルニ由ル若シ巴里ニ於テ市邑入市税ナケレハ該府ノ消費高ハ方今ノ半ヲ増シ一人ニ付二百五十七「リートル」ニ達スヘ然ラハ則チ市邑入市税ハ實ニ非常ニ不平等ノ税ト云フヘキナリ宜ク他ニ比例ノ當ヲ得ル租税ヲ求メテ之ニ代ラシメサルヘカラス地租及家賃税ハ則チ此職ニ適スル者カ抑モ租税ノ賦課人民ノ財產若クハ歳入ニ比例スル、最モ近キ者ハ家賃税ニ如クハナシ市邑ニ於テ歳入ノ申告高ニ課スルニ租税ヲ以テスルカ如キハ最大ノ不便ヲ免レサルモノトス如何トナレハ歳入税ハ頗ル危難ノ者ニシテ市邑ヲシテ之ヲ行ハシムルハ大ニ危険ナルヲ以テナリ

又市邑入市税ヲ廢止スルカ爲メニハ地租ヲ増加スルモ可ナルヘシ實ニ該税ノ廢止ハ市府ノ財產家ヲ利スル、大ナリトス如何トナレハ方

今此地方消費税ノ重キヲ避ンカ爲メニ市外ニ移住スル者ハ歸テ市内ニ居ヲトスヘケレハナリ

余輩ハ市邑入市税ヲ廢スルノ決シテ容易ナラサルヲ知ル諸國ノ諸府殊ニ佛國ノ市府ニ於テハ二十五年若クハ三十年以降頗ル巨費ニ苦ミ巨萬ノ負債ヲ擔ヘリ幸ニシテ義務ノ爲メニ償還ヲ行ヒ之カ負擔ヲ減スト雖モ後世子孫ニ至ルマテ尙ホ頗ル重負ヲ免レサルモノアリ故ニ市邑入市税ヲ廢セント欲セハ大ニ佛國ノ重要ナル直税ヲ増加セサルヘカラス例ヘハ巴里ニ於テハ千八百七十六年四直税ノ高ハ正税副税ヲ合セテ左ノ如シ

地租

二八、四六〇、〇〇〇フランク

門窓税

一〇、四五八、〇〇〇フランク

分頭及動産税

二〇、一〇八、〇〇〇フランク

營業税

四六、八一五、〇〇〇フランク

合計

一〇五、八四三、〇〇〇フランク

初メ之ヲ見ル時ハ改正ヲ行フ敢テ難カラサル者ノ如シ四直税ノ巴里府ヨリ徵收セラル、者正税副税ヲ合セテ一億六百萬フランクアリ而シテ市邑入市税ノ額ハ一億二千八百萬フランクナルヲ以テ直税ヲ増シテ市邑入市税ヲ廢セント欲セハ直税ノ額一倍二割ヲ加フレハ足ルヲ以テナリ然ルニ實際ニ於テハ之ヲ行フ敢テ容易ナリト云ヒ難レ四直税ノ中之ヲ増加スレハ不正ト危害トヲ免ル能ハサル者一アリ即チ營業税是ナリ該税ハ已ニ非常ニ重シ故ニ營業ニ課スル所ノ租税ヲ以テ消費ニ課スル所ノ者ニ代フルモ只弊ヲ以テ弊ニ代フルニ過キサルヘシ營業税ノ外他ノ三種ノ直税收入高ハ巴里府ニ於テ五千九百萬フランクアリ若シ市邑入市税ヲ廢セント欲セハ此三税ニ就テ凡ソ一

億二千八百萬フランクヲ得サルヘカラス之ヲ以テ少ナクモ右三税ノ額ヲ三倍セサルヘカラサルニ至ル現今地租ハ(副税ヲ合セテ)被税者ノ純歳入ノ凡ツ六分ニ當ル如何トナレハ千八百七十六年地租ノ正税副税ノ額二千八百五十萬フランクニシテ同年政府ノ算定ニ據レハ(蓋シ此算定ハ實際ノ價格ニ及ハサル者)巴里府家屋ノ家賃價格ハ四億二千五百萬フランクナルヲ以テナリ然ラハ則チ地租ノ税率ヲ増シテ歳入ノ凡ツ一割八分トナサ、ルヘカラス是レ頗ル重税タルヤ疑ヲ容レサルナリ然レトモ合衆國ノ諸府ニ於テ行フ所ニ比スレハ尙ホ遙ニ輕シト云フヘシ分頭及動産税及門窓税ノ二者ハ余輩ノ合シテ一トナサンヲ望ム所ノ者ニシテ住家ノ家賃價格ノ一割餘ニ當ル(製造所工業商業ニ關スル營業所ヲ除ク)此二税モ亦三倍シテ三割トナサ、ルヘカラス抑モ三割ノ家賃税一割八分ノ地租ハ苛刺ノ收歛ト云フヘキカ曰ク

然リ是レ甚ダ重シト云フヘシ然ト雖モ未タ以テ其重キニ堪ヘ難シト云フヘカラス此ノ如クセハ地方税ノ賦課ハ方今ニ比スレハ一層宜キヲ得ルニ至ラン如何トナレハ市府ノ入市税ヲ廢スル時ハ無數ノ煩則東縛ヲ解キ奸曲ヲ剔除スルヲ以テ商業ノ發達居民ノ衛生ヲ利スルヲ小ナラサルヘケレハナリ

余輩ハ市邑入市税ヲ廢スルニ專ラ地租ノ増加ニ依ルヲ欲セサルナリ請フ其理由ヲ陳セン元來繁榮ナル市府ニ於テハ家屋ニ係ル地租ハ實際家屋ノ居住者ノ負擔ニ歸スヘシト雖モ(第七編ヲ見ルヘシ)無智ノ徒ハ此實際ノ負擔ヲ顧ミス又其實際負擔ノ結局ニ至ルマテハ時日ヲ要スルヲ以テ專ラ地租ニ取ル時ハ輿論ヲ代表スル所ノ大都府ノ議員等ハ市邑ノ經費ヲ拂フ者ハ獨リ地主ニアリテ勞力者ハ之ヲ負擔セサル者ナリト考ヘ經費ノ増加ヲ意トセサルニ至ルノ恐レアリ斯ノ如キ思

慮ハ誤認ノ甚キ者ナリト雖モ實際ニ於テハ往々免レサル所ナリ若シ
 勞力者カ市邑入市税ヲ廢シタルカ爲メニ他ノ被稅者ト共ニ増加シタ
 ル家賃税ヲ拂ハ、經費ノ増加ハ都テ自己ノ負擔ヲ増加スル者ナルヲ
 明知シ執事者ヲレテ節儉ヲナサシメントヲ力ムヘシ何レノ國ヲ問ハ
 ス租税ノ性質ト參政ノ權利トハ多少ノ關係ヲ有セサルヘカラス納税
 額ニ依テ投票權ヲ限ル所ノ國ニ於テハ不動産ヲ以テ租税ノ重要ナル
 基礎トナスモ敢テ大不便ナカルヘシ是レ英國ノ郡市邑及宗邑ニ於テ
 行フ所ノ者ナリ此場合ニ於テハ撰舉者ナル地主等ハ經費ヲ節シテ重
 荷ヲ課セサランコニ注意スヘキヤ必セリ之ニ反シテ一般ニ投票權ヲ
 有スル國ニ於テハ不動産ヲ以テ租税ノ重要ナル基礎トナス時ハ浪費
 ヲ醸シ不正ヲ生スルヲ免レサルヘシ此ノ如キ場合ニ於テハ撰舉者ノ
 多クハ地主ニアラサルヲ以テ其自ラ拂ハサル所ノ經費否ナ其自ラ拂

フ所ニアラスト信スル所ノ經費ヲ増加スルヲ意トセサルヘシト雖モ
 實際ニ於テハ輾轉シテ遂ニ負擔セサルヘカラサルモノナリ由是觀之
 ハ余輩カ消費税財產税ヲ混和シタル如キ一種ノ租税即チ家賃税ヲ以
 テ將來ノ一大要税トナシ市邑入市税ノ代税トナスヘキ者ノ一ニ列セ
 サルヘカラストナスモ亦宜ナラスヤ
 千八百七十七年二月刊行大藏省ノ統計及立法比較官報ニ於テ佛國ノ
 市邑入市税ニ關シテ有益ナル報道ヲ載セタリ余輩ハ之ニ據テ千八百
 七十六年佛國ノ二十三大大府ニ於ル表ヲ製出セン
 余輩ハ表中第四ノ直税即チ營業税ノ收入額ヲ特掲セスト雖モ該税ノ
 收入額ハ最後ノ段ニ於テ他ノ三直税ノ額ト合セテ掲出セリ

市 府	税市 收入高	地租 收入高	分 頭 及 動 産 税 收 入 高	門 窗 税 收 入 高	四 直 業 稅 收 入 高
パ リ オ ン	二四二三八,〇〇〇	二八,四六〇,〇〇〇	二〇,一〇八,〇〇〇	一〇,四五八,〇〇〇	一〇五,八四三,〇〇〇
リ オ ン	二二,一三八,〇〇〇	三,一四六,〇〇〇	一九四八,〇〇〇	一,二七三,〇〇〇	一三六,八八,〇〇〇
マ ル セ ー ユ	九七八二,〇〇〇	二六三八,〇〇〇	二二八五,〇〇〇	一,一九九,〇〇〇	二一,〇八四,〇〇〇
ボ ル ド ー	四二,六七〇,〇〇〇	二〇,四九〇,〇〇〇	一,三四三,〇〇〇	九一〇,〇〇〇	九,〇五二,〇〇〇
リ ー ル	三,七二七,〇〇〇	一,〇〇一,〇〇〇	七七〇,〇〇〇	七六八,〇〇〇	四,八八八,〇〇〇
ナ ン ト	二,三〇九,〇〇〇	八二一,〇〇〇	五七八,〇〇〇	五二六,〇〇〇	三,六六二,〇〇〇
ト ー ル ト ス	二九,〇四〇,〇〇〇	七,八七〇,〇〇〇	五〇九,〇〇〇	五八六,〇〇〇	三,一七二,〇〇〇
ル ー ア ン	三,四九九,〇〇〇	一,四三二,〇〇〇	六八八,〇〇〇	六一三,〇〇〇	四,七六一,〇〇〇
レ, ア ー ヴ ル	二,四八四,〇〇〇	一〇,八五〇,〇〇〇	六〇四,〇〇〇	四五〇,〇〇〇	五,〇一五,〇〇〇
セ ー ン, エ チ ェ ン	二,八四七,〇〇〇	五,四七〇,〇〇〇	三,七三〇,〇〇〇	三,七七〇,〇〇〇	二,五九六,〇〇〇

レ ー ム	一,〇七二,〇〇〇	三,五七〇,〇〇〇	三一九,〇〇〇	三,五六〇,〇〇〇	二,四三三,〇〇〇
ル ー ベ ー	一,五五〇,〇〇〇	三,七五〇,〇〇〇	二,四〇〇,〇〇〇	二,七六〇,〇〇〇	二,一三八,〇〇〇
ニ ー ム	一,〇九五,〇〇〇	四,六一〇,〇〇〇	二,四二〇,〇〇〇	二,四八〇,〇〇〇	一,七八五,〇〇〇
ア ミ エ ン	一,一〇七,〇〇〇	五,八八〇,〇〇〇	三,二六〇,〇〇〇	二,九二〇,〇〇〇	二,一七三,〇〇〇
ア ン ゼ ー ル	一,〇九六,〇〇〇	四,六六〇,〇〇〇	三,一六〇,〇〇〇	三,〇八〇,〇〇〇	一,七六一,〇〇〇
ナ ン シ ー	一,三六三,〇〇〇	二,九三〇,〇〇〇	二,二二〇,〇〇〇	二,三二七,〇〇〇	一,五五九,〇〇〇
リ モ ー ザ	一,四〇〇,〇〇〇	二,五五〇,〇〇〇	一,四一〇,〇〇〇	一,九〇〇,〇〇〇	一,三〇六,〇〇〇
ト ー ロ ン	一,二六七,〇〇〇	二,七二〇,〇〇〇	三,一三〇,〇〇〇	二,五九〇,〇〇〇	一,二一九,〇〇〇
ニ ー ス	一,〇〇七,〇〇〇	四,四一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	二,二二〇,〇〇〇	一,五九五,〇〇〇
レ ン	一,一四八,〇〇〇	三,三三〇,〇〇〇	二,二四〇,〇〇〇	一,四一五,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
ト ー ル	一,〇〇三,〇〇〇	三,四八〇,〇〇〇	二,三七〇,〇〇〇	一,六四〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇

ヴェルサーユ	1,146,000	570,000	316,000	185,000	1,359,000
グレノーブル	1,079,000	151,000	155,000	95,000	1,219,000

表中ノ數ハ皆(フランク)ヲ以テス
 右ノ表ニ據テ之ヲ見レハ市邑入市税ノ四直税ノ收入ニ超過スル者ハ
 巴里及セーレン、エチエンノ二府アルノミ然ルニ已ニ論述セシ如ク商業
 ニ課スル所ノ營業税ハ已ニ甚タ重キヲ以テ増加スヘカラス市邑入市
 税ニ對照スヘキモノハ地租分頭及勸産税門窓税ノ三アルノミ故ニ是
 等ノ直税ヲ増課シテ市邑入市税ヲ廢セント欲セハ巴里ニ於テハ三直
 税ノ率ヲ三倍セサルヘカラスセーレン、エチエンニ於テモ亦少ナクモ之
 ヲ三倍セサルヘカラスグレノーブルニスニ於テモ殆ト相同シカル
 ヘシナンレリモイダトーロンニ於テ市邑入市税ヲ廢スルニ三直税
 ノ率、一倍八割ヲ増加スヘクレームニ於テハ一倍七割五分トールニス

及マルセーユニ於テハ一倍六割リールールーベニ於テハ一倍五割ト
 ールニ於テハ一倍四割ヴェルサーユ及ルーアンニ於テハ一倍三割ヲ
 増加セサルヘカラス表中他ノ市府ニ於テハ此改正ヲ行フ一層容易
 ナルヘシ則チナントニ於テハ三直税一倍二割アール及ニームニ於
 テハ一倍一割五分レームニ於テハ一倍五分ポルドー及アミエンニ於
 テハ一倍アンゼールニ於テハ九割五分ヲ増スヲ以テ足レリトス
 諸大府ノ地租ハ副税ヲ合セテ不動産借賃價格ノ六分乃至七分勸産税
 ハ住家賃價格ノ七分乃至八分門窓税ハ同價格ノ殆ト三分乃至四分
 ナルヲ以テ見レハ市邑入市税ヲ廢セント欲セハ諸大府多クハ地租ヲ
 増レテ不動産歲入ノ一割五分乃至二割トナシ勸産税ヲ一割八分乃至
 二割四分トナシ門窓税ヲ七分乃至一割トナサ、ルヘカラス之ヲ約言
 スレハ諸大府ノ不動産ハ合計歲入ノ四割乃至六割ニ當ル租税ヲ負擔

スルニ至ルヘシ此惣額四割乃至六割ノ凡ソ一半ヲ以テ不動産ニ課シ
 他ノ一半ヲ以テ家賃價格ニ課セハ可ナラン
 右ノ如キ稅率ハ實ニ重シ然レトモ必然堪ヘ難キ者ナリト云フヘカラ
 ス勿論家賃ハ多少騰貴スヘシト雖モ實際ノ生計費ハ却テ減少スヘシ
 而シテ其徵收スル所ノ額ニ異ナルアルニアラス只負擔ノ配當ヲ改正
 シテ之カ不平均ヲ減スルニ過キス夫レ大府ノ修飾ヲ利スルハ各人其
 貧富ニ應ス然ラハ則チ又貧富ノ割合ニ從テ各々之カ費用ヲ辨スルハ
 豈ニ當然ナラスヤ
 加之ナラス久キヲ經シテ是等ノ地方直稅ハ多少減少スルニ至ルヘ
 シ元來此ニ三十年間諸大府多クハ驕侈ノ事業ヲナスヲ甚ク眞ニ濫費
 ト云フヘキモノアリ然ルニ今後五十年ノ間ニ於テハ諸府亦同轍ヲ踏
 マサルヘク市府ノ修飾ヲ全廢セスシテ漸次ニ事業ヲナスニ至ルヘシ

仮令其豫想ノ如クナラサルモ須ラク能ク此ノ如クナルヲ力ムヘシ抑
 モ是等ノ諸府ハ皆負債ヲ有セサルモノナシ然ルニ其負債タル無期限
 ニアラス期限毎ニ消却スル所ノ者ナリ是ヲ以テ二十年若クハ三十年
 ヲ過キハ其大部分ヲ償還シ七十五年ニシテ全ク之ヲ償還スルニ至ラ
 ン其新債ヲ起シテ之ヲ消却スル者ハ蓋シ其一部分ニ過キサルヘシ然
 ラハ則チ市邑入市稅ヲ廢シテ之ニ代フル地租家賃稅ハ二三十年ヲ過
 キハ之ヲ減スルヲ得ヘク仮令其年間ヲ經サルモ早已ニ減スルヲ得ル
 ニ至ラン如何トナレハ入市稅ノ關門ヲ除却スル時ハ市府ノ人口ヲ増
 加シ人口ヲ増加スルカ爲メニ不動産ノ賣價歲入ヲ増シ被稅物件ノ増
 加ニ由リ歲入ニ對スル地租ノ割合家賃價格ニ對スル動産稅ノ割合減
 少スルヲ得ヘケレハナリ
 余輩カ此ニ稱揚スル所ノ改正ノ效能ハ工商營業ノ抑制ヲ解キ方今市

邑入市税ヲ負擔スルノ最モ重キ細民ノ負擔ヲ減シ而シテ不動産家賃ノ直税ヲ以テ地方費増加ノ感覺ヲ直接ナラシメ市邑廳并ニ撰舉人ヲシテ大ニ節儉ヲカメシムルニアリ

已ニ陳述セシ如ク佛國市邑入市税ノ徵收費ハ千八百七十五年ニハ全國ヲ平均シテ八分二七ナリ然ルニ該費ノ割合ハ市府ニ依テ大ニ異同アリ佛國二十大府ノ中該税徵收費ノ最モ小ナル者ヲ巴里五分〇二トナスルーベール(六分六〇)リール(七分四九)レン(七分六一)里昂(七分八六)グレンノール(八分五三)ナンシー(八分八一)アーヴル(八分九四)ノース(九分三九)セーレンエチエン(一割〇分〇七)ニーム(一割〇分一〇)レーム(一割一分一二)リモーヂ(一割一分八九)トローロン(一割二分二一)ナント(一割二分四四)トールース(一割三分〇六)ヴェルサイユ(一割四分一七)ルリアン(一割四分四六)マルセル(一割四分四八)ポルドー(一割六分四九)之ニ次ク

右徵收費ノ割合相同シカラサルハ種々ノ原因ニ由ルヘキハ自然ノ理ナレトモ其重要ナル者ヲ二トス則チ市府ノ廣狹税率ノ輕重是ナリ例ヘハポルドー府ノ如キハ市區大ニシテ市邑入市税甚々重カラス而シテ徵收費ハ收入ノ多少ニ拘ハラズ殆ト相同シ之ヲ以テ其收入ニ對スル經費ノ割合著ルシク多キニ至レリ

白耳義ハ近年能ク市邑入市税ノ廢止ヲ決行セリト雖モ余輩カ前章ニ論スル所ノ代税法ヲ舉行セス其然ル所以ノモノハ種々ノ理由アリシニ由ル就中大ニ直税ヲ増加スル時ハ撰舉權ノ制限ニ關スル法律ノ改正ヲナサハルヘカラサルニ至ルノ事アルニ由レリ(本文ノ理由アリシトハ市邑入市税廢止ニ關スル法案ノ説明ニ於テ見ルヲ得ヘシ)

千八百五十八年白耳義市邑入市税ノ純收入ハ千八百七十七萬六千八百五十九フランク其徵收費ハ大約百五十萬フランクナルヲ以テ其惣收入高千

二百三十七萬六千八十五フランクナリ千八百六十年七月十八日ノ法律ニ於テ市邑入市税ト稱スル間接税ヲ廢シ自今再置スヘカラサル旨ヲ定メ又千八百六十年八月二日ノ法律ヲ以テ右ノ禁止令ニ於テハ仮屋店各種市場ノ場所若クハ客車置場ノ稅度量權衡等ノ稅船着場船渠船積量等ノ稅諸掃除ノ稅港橋梁堰堤ノ稅倉庫稅(市邑入市税ヲ課スル物品預置庫ノ稅ヲ除キ)麻織物其他ノ商品ニ貼用スル印紙稅ノ如キ地方間稅ヲ包含セサル者ナリト宣言セリ

市邑入市税廢止ノ爲メニ減少セル財源ヲ市邑ニ與フルニ白耳義政府ハ全國一般都鄙共ニ此改正ノ利ヲ被ルヘキ制度ニ依ラス中央政府ノ財源ノ一部ヲ割與シ國稅中或ル間稅ヲ增加セリ則チ葡萄酒「ブランド」ノ内地稅ヲ增加シテ市邑入市税ノ全國平均額ノ割合ニ均シカラシメ麥酒酢砂糖ノ稅モ亦均ク增加セリ而シテ中央政府ハ郵便ノ事務上

ヨリスル各種ノ歲入惣收入高ニ就テ四割咖啡ノ輸入稅收入高ニ於テ七割五分外國產ノ葡萄酒「ブランド」內國產ノ「ブランド」及麥酒酢砂糖ノ内地稅收入高ニ於テ三割四分ヲ以テ市邑ニ交付セリ
右ノ如ク中央政府ノ收入ヨリ市邑ニ交付シ市邑基金ト稱スル所ノ歲入ハ前年ニ賦課シタル建築アル不動産ノ地租分頭稅營業稅ノ正稅額ニ割合毎年各市邑ニ配賦スル者ニシテ其一ケ年ノ配賦高四分ノ一ヲ以テ毎三ヶ月ノ始メニ各市邑庫ニ送付ス而シテ同法律ニ於テ千八百六十一年十二月三十一日マテハ市邑基金ニ交付スヘキ高千五百萬フランクヲ下ルヘカラストセリ實ニ千八百六十一年ニ於テハ該基金ノ歲入千五百二十五萬三千フランクニ達セリ即チ市邑入市税ノ純收入高ヲ超過スルコト凡ソ四百五十萬フランクナリ然ルニ此ノ如ク中央政府ノ財源ヲ割テ組成シタル市邑基金ハ只ニ從前市邑入市税ヲ課シタ

ル諸邑ニ配賦セシニアラス尤モ從前市邑入市税ヲ課シタル市邑ハ其大部分即チ千五百二十五萬フランク中大約千二百萬フランクヲ受タリト雖モ他ノ未タ當テ市邑税ヲ課セサル所ノ者モ亦千八百六十一年ニ於テ三百二十六萬五千フランクヲ得タリ

白耳義ノ改正ハ十八年以降之ヲ實驗シ全ク其功ヲ奏セリ此レ其原案者フレール、オルバン氏ノ功ト云フヘキナリ右ノ改正ニ依リ中央政府カ市邑ニ配賦スル所ノ基金ノ額ハ常ニ増加セリ千八百六十八年ノ歲出入豫算ニ據レハ其額千七百十三萬六千フランクニ上レリ之ヲ各種ノ財源ニ分賦スレハ左ノ如シ

咖啡輸入稅收入高ノ七割五分	一、八七五、〇〇〇フランク
「フランダ」輸入稅收入高ノ三割五分	一七五、〇〇〇フランク
麥酒酢輸入稅收入高ノ三割五分	六〇、〇〇〇フランク

葡萄酒内地稅收入高ノ三割五分	一、一三〇、〇〇〇フランク
「フランダ」内地稅收入高ノ三割五分	四、二五〇、〇〇〇フランク
麥酒酢内地稅收入高ノ三割五分	四、八四〇、〇〇〇フランク
砂糖内地稅收入高ノ三割五分	二、一〇〇、〇〇〇フランク
郵便事務各種歲入收入高ノ四割一分	二、七〇六、〇〇〇フランク
合計	一七、一三六、〇〇〇フランク

右ノ數額ハ白耳義ノ市邑入市税廢止ニ關シ政府ノ公發シタル文書ニ據ル者ナリモリス、プロツク氏ノ統計年表ニ據レハ中央政府ノ諸財源ヨリ割與シタル市邑基金ノ額ハ千八百七十七年ノ豫算ニ於テ二千四百五十七萬三千九百フランクニ上レリ其財源ノ條目ハ左ノ如シ

關稅ノ收入ヨリ	三、四四〇、〇〇〇フランク
葡萄酒稅ノ收入ヨリ	一、五九二、〇〇〇フランク

同國產「ブランデー」税ノ收入ヨリ	八、四〇〇、〇〇〇フランク
麥酒及酢税ノ收入ヨリ	五、五八二、〇〇〇フランク
砂糖税ノ收入ヨリ	一、六八〇、〇〇〇フランク
郵便税ノ純收入ヨリ	三、八七八、〇〇〇フランク
合計	二四、五七二、〇〇〇フランク

右ノ表ニ由テ之ヲ見レハ千八百六十年以降市邑基金ノ大ニ増加セシヲ知ルニ足ル然ラハ則チ市邑入市税ヲ課シタル所ノ市邑ハ不滿ヲ唱フヘキノ理ナシト云フヘシ該國ニ於テ市邑入市税ヲ廢シタル始メニ方テヤ或ハ市邑入市税ヲ廢セハ財源ノ屈伸力ヲ減スヘシト稱セリト雖モ爾後十七年ニシテ中央政府ノ割與シタル歲入ノ額六割ヲ増加シタルヲ以テ之ヲ見レハ又此ノ如キ患ナキヤ明カナリ又當初或ハ以爲ラク改正ノ新法ハ葡萄酒税「ブランデー」税麥酒税ノ如キ從前ハ一地方

ノ租税タリシモノヲ止メテ一般ノ附加税トナセシヲ以テ市府ヲ利シテ鄉村ヲ苦シムルモノナリト然ルニ此論モ亦未タ當レリト云フヘカラス如何トナレハ入市ノ妨碍ヲ除去スルヲ以テ農産品ノ消費ヲ容易ナラシメ之カ需要ヲ増加スヘク又一ニハ從來市邑入市税ヲ課セサル市邑モ亦中央政府ノ交付スル所ノ市邑基金ノ分配ヲ受ルヲ以テナリ

又或ハ白耳義ノ改正ヲ難シテ從前市邑入市税ヲ課シ爾後其負擔ヲ脱シタル物品ノ價大都府ニ於テ下落セサルヘキヲ以テ改正ノ目的ヲ達スルニ足ラサルヘシト稱スルモノアリ白耳義政府ノ一報告ニ於テ言フ所ヲ見ルニ市邑入市税ノ廢止ハ農産品價ノ騰貴ヲ抑制シ生産物ノ品位ヲ改良スルヲ以テ冥々中ニ利益ヲ與フルコト少ナカラスト其言當レリト云フヘシ若シ試ニ該國ノ市邑入市税廢止ノ前後各々五ヶ月間

ノ平均肉價ヲ對照スレハ穀價ニ比準シテ四大府ノ中ブルツセルガン
 リエーズニ於テハ改正後少シク下落シアンヴェルニ於テハ却テ騰貴
 セシヲ見ルヘシ其アンヴェル府ニ於テ騰貴セシ所以ノ者ハ只其原因
 一地方ニ止マルモノニアラサルナキヲ得ンヤ未タ知ルヲ得サルナリ
 (國會ノ記録白耳義市邑入市稅廢止ノ篇第一卷五百三十六葉ヲ見ルヘ
 シ)
 抑モ統計ハ財政改革ノ結果ヲ表出スル能ハサルコト少ナカラス如何ト
 ナレハ是等ノ改正ハ常ニ即時ニ直接ノ効驗ヲ生スルモノニアラス其
 影響ハ往々合期セス却テ反對ニ出ルコトアルヲ以テナリ故ニ其外形ニ
 表出スル所ノ如何ニ拘ハラズ白耳義ノ改正ハ同時ニ消費者生産者商
 業者ヲ利セシヤ疑ヲ容レサルナリ
 白耳義ノ改正ニ就テ難スヘキハ市邑入市稅ノ廢止ヲ償フニ中央政府

ノ財源ヲ以テシ改正ヲシテ完美ナラシムル能ハサルニアリ如何トナ
 レハ有害ノ消費稅ニ代ルニ他ノ消費稅ヲ以テシ其賦課ハ一層良善ナ
 レトモ尙ホ未タ厭フヘキ者ナルヲ以テナリ爾後中央政府ハ地方費ノ
 大部分ヲ供給セサルヘカラス從テ自己ノ財政上前日ト同一ノ自由ヲ
 有セサルニ至レリ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ市邑入市稅ヲ廢スルニ不動
 產及家賃ニ地方稅ヲ附加レ以テ之ニ代ルノ良キニ如カサルナリ抑モ
 白耳義政府ノ施行シタルカ如キ改正ハ獨リ政府ノ歲入餘リアリ巨額
 ノ餘贏ヲ割與スルモ妨ナキ者ニシテ之ヲ行フコトヲ得ヘシ然ト雖モ市
 邑入市稅ノ改正ハ重要ナリ其利一般ニ關ス若シ爲ヌヲ得ヘキ時ハ中
 央政府ハ暫時市邑ヲ補助シテ力ヲ改正ニ添ルハ決シテ無用ニアラサ
 ルナリ
 地方財政法ノ改良ニ最大妨碍タル者ハ地方費ノ非常ニ増加セシコト是

ナリ諸縣邑ノ議會ハ皆爭フテ大土功ヲ起シ以テ自ラ誇ランコトヲ之レ欲ス其間或ハ眞ニ公益ノ事アリト雖モ純然タル虛飾ニ過キサルコト亦少ナカラス元來此ノ如キ進取ノ銳氣ハ其主義ニ於テハ賞スヘキモノナリト雖モ其弊ヤ往々過大ノ業ニ趨ルノ患アリ方今開明ノ諸國ニ於テ其州縣殊ニ市府ノ公金ヲ濫費セサル者ナシ是レ獨リ佛國ノミナラシヤ英國以太利亞米利加合衆國皆均ク然リ白耳義ト雖モ尙ホ免ル能ハス日耳曼モ亦能ク之ヲ搜索討究セハ此弊ヲ免ル能ハサルヤ疑ヲ容レサルナリ佛國ニ於テハ直稅ニ附加スル地方副稅ノ増加頗ル甚ク千八百三年ニ於テハ其收入僅ニ五千七百萬フランクニシテ千八百六十四年ニハ二億六千二百四十四萬四千フランクニシテ千八百六十九年ニハ二億四千三百萬フランクニ上リ千八百七十七年ノ豫算ニ於テハ大約三億五百萬フランクニ達セリ然ラハ則チ第十九世紀ノ初年以降五倍四割ヲ

増加シ千八百六十四年以後四割八分ヲ増加セシモノナリ余輩ハ前章ニ於テ市邑入市稅ノ發達ヲ示シ其純收入ハ千八百二十三年ニハ僅ニ四千四百萬フランクニシテ千八百四十三年ニハ六千五百萬フランクニ千八百六十二年ニハ一億四千百萬フランクニ上リ千八百七十五年ニハ遂ニ二億千五百萬フランクニ達シ五十二年間ニ市邑入市稅ヲ課シタル市邑ノ人口ハ一倍ノ増加ニ至ラサルニ租稅ノ收入ハ五倍ノ増加ニ至レルヲ說ケリ是等ノ諸數ニ由テ之ヲ見レハ當世紀ニ於テ佛國ノ縣費市邑費ノ増加實ニ甚キヲ知ルヘシ勿論右ノ經費ヲ以テ數多ノ公益土木道路學校等ニ供シタルモノ少ナカラスト雖モ一方ヨリ之ヲ見レハ此ノ如ク遽ニ地方ノ經費ヲ増加スル時ハ地方財政ノ良法ヲ設ント欲スルモ其能クシ難キヤ亦宜ナラスヤ抑モ地方費ノ發達ハ獨リ佛國ニ止マルニアリス諸國皆然リトナス已

ニ前章ニ陳セシ如クロポルト、デメル氏ノ説ニ據レハ英國(エングラン
ド)ノ地方税ハ三億フランク(餘ニ達シ爾後久ク已ニ其額ニ超エタリ白
耳義大藏省ノ派遣員フイスコーク、ハンデル、ストラエテンノ二氏ノ研
究報告セシ所ニ據レハ千八百六十年ノ際エングランド及ウエールス
ニ於テ徵收シタル地方直税ノ額ヲ算定シテ千二百五十萬ポンド(三億
千二百五十萬フランク)ナリト稱セリ千八百七十六年ノ統計年表ニ據
レハ千八百七十三年度ニ於ル全英國地方直税ノ徵收高ハ二千四百三
十二萬二千ポンド(凡ソ六億千萬フランク)ナリ英國地方税ノ増加決シ
テ小ナラス余輩ハ獨リ輓近ノ景況ヲ示スヲ得ルノミ請フ左ニ該税ノ
常ニ發達スルヲ見シ

年度	全英國地方費 フランク	直税收入高 フランク	間税收入高 フランク	雜收入 フランク
千八百六十七年度	九〇五,〇〇〇,〇〇〇	四九六,〇〇〇,〇〇〇	二八三,〇〇〇,〇〇〇	二七,一〇〇,〇〇〇

千八百七十一年度	九六七,二〇〇,〇〇〇	五四四,六〇〇,〇〇〇	一一六,四〇〇,〇〇〇	三〇六,二〇〇,〇〇〇
千八百七十二年度	一,〇二四,八〇〇,〇〇〇	五七〇,四〇〇,〇〇〇	一一七,七〇〇,〇〇〇	三三七,一〇〇,〇〇〇
千八百七十三年度	一,一四〇,〇〇〇,〇〇〇	六二〇,〇〇〇,〇〇〇	一二五,〇〇〇,〇〇〇	四〇五,〇〇〇,〇〇〇

表中雜收入トハ地方有財產ノ收入政府ノ補助金及公債募集高ヲ
云フ

右ノ如ク英國ノ地方費ハ六年ノ間ニ於テ大約一億三千五百萬フラン
ク(即チ一割五分ヲ増シ地方税ハ一億八百萬フランク(即チ凡ソ一割六
分ヲ増加セリ

白耳義ニ於テモ亦同シ已ニ前章ニ陳セシ如ク中央政府ノ財源ヨリ割
與スル所ノ市邑基金ハ千八百六十一年ヨリ千八百七十七年ニ至ルマ
テ十七年ノ間ニ六割ヲ増シ大府ノ地方税増加モ亦敢テ之ニ下ラス官
府ノ一文書ニ據レハ該國十大府ノ豫算ニ舉ル租税ハ市邑基金ヲ以テ

代へタル市邑入市税ヲ除キ)

千八百五十四年

七、九七六、六五九フランク

千八百六十年

九、七二四、一〇一フランク

千八百六十六年

一、二三八、四七四フランク

國會ノ記録白耳義市邑入市税廢止ノ篇第一卷七百七十七葉ヲ見ルヘシ○白耳義ノ十大府トハアンヅエルマリーンブルツセルル
ーヅ、ハインブルーズ、クールトレীগンモンターリエー、
ナリ

是レ千八百五十四年以後十二年ニシテ五割五分ノ増加ヲ致セシモノナリ

以太利モ亦地方財政ノ景況ニ於テ歛募スヘキノ形状ヲ見ス共諸大府負擔ノ甚キ皆佛國ノ市府ニ過ルモノアリ例へハフロランクスノ如キ

其歲計ノ大ナル割合ニ巴里府ノ歲計ニ過キタリ近年ノ統計ニ據レハ以太利國諸州ノ歲計ハ千八百六十二年ニハ僅ニ二千七百萬フランクナリシモ千八百七十四年ニ於テハ八千二百萬フランクニ達シ市邑ノ歲計ハ以太利國一統ノ時ニ於テハ二億二千九百萬フランクナリシモ千八百七十四年ニハ三億七千萬フランクニ達セリ是レ即チ十四年ニシテ七割ノ増加ヲ致セシ者ナリ以太利諸大府ノ負擔ハ實ニ重シ請フ共千八百七十四年ニ於ル八大府ノ經費ヲ示サン

市府

人口

經費

フロランクス	一六八、七三一	二、三七一、二〇〇	フランク
ローマ	四四七、七二七	一、六五六、五六七	フランク
ローマ	二三九、〇一三	一、五一九、五五五	フランク
ゼーヌ	一六一、六〇九	一、二七六、四三三	フランク

ミラン	二六〇、二五三	一一六六七、〇一九フランク
チユーリン	二一三、〇五四	九、八八四、六二六フランク
パラルム	二二四、四一八	五、八一六、〇一九フランク
ヴェニス	一二六、九四一	四三〇、四六二、四フランク

右諸府ノ中フローランス府ノ負擔殊ニ重シ蓋シ歐洲ノ諸府中租税ノ負擔最モ重キ者ナルヘシ其居民一人ニ當ル税額ノ割合ハ巴里府ト殆ト異同ナシト雖モ其富ニ至テハ遙ニ巴里ニ及ハス抑モ是等以太利ノ市邑ハ皆市邑入市税アリ而シテ該税ノ收入ヲ專ニスルヲ得サルヲ以テ苦情ヲ唱フヘキノ理由甚タ大ナリトス千八百七十四年市邑入市税ノ收入高ハ一億三千六百萬フランクニシテ市邑費ニ供スルヲ得ル者ハ僅ニ七千九百萬フランクニ過キス餘ノ五千七百萬フランクハ皆中央政府ニ收入スル者ナリ

右ノ事實ハ千八百七十六年十月七日刊行ノ佛國經濟誌以太利通信

ノ項ニ據テ舉ルモノナリ

本書ノ第一版ニ於テ以太利ノ諸府ニ關スル右ノ事實ヲ記載シタルニ爾後ブタペストノ統計局長ヂョーセフ、ケレシー氏ハ萬國統計會議ノ後諸大府ノ財政ニ關シ有益ナル一書ヲ世ニ公ニセリ此匈牙利統計家ノ拾集セシ所ノ者ニ由テ之ヲ見レハ十二年以降歐洲諸大府ノ經費ハ殆ト皆一倍ノ増加ヲナセリ巴里府ノ歲計ハ此十年間ニ一億五千萬フランクヨリ二億二千五百萬フランクニ上リシヲ以テ僅ニ五割ヲ増加セシニ過キスト雖モ該府ハ已ニ千八百六十六年ニ於テ濫費ノ景况アリ千八百六十九年ヨリ千八百七十五年マテニ伯林府ノ通常歲計ハ千八百萬フランクヨリ三千六百萬フランクニ上リ維也納府ノ通常歲計ハ千八百六十五年ヨリ千八百七十四年マテニ千六百五十萬フランク

ヨリ三千百萬フランクニ上リスチニツトガルトノ歲計ハ同時代ニ於テ三倍シブレヌラウノ歲計ハ殆ト二倍シ千八百六十六年以後フロールニス府ノ經費ハ三倍ヲ増加セリ此十年以來該府ノ歲出入皆大ニ相償ハサルハ吾人ノ知ル所ナリコーペンハーグニ於テハ千八百六十五年以後經常非常ノ二經費共ニ殆ト一倍ノ増加ニ至レリケレシー氏ノ報道ニ基キ余輩ハ左ノ一表ヲ製セリ是レ其有益ナルカ爲メナリ

歐洲諸大府ノ居民一人ニ當ル市邑通常費ノ割合

- 第一 巴里 一〇五フランク
- 第二 フローランス 九〇フランク
- 第三 羅馬 五八フランク
- 第四 維也納 四六フランク

- 第五 チューリン 四三フランク
 - 第六 スチットガルト 四〇フランク
 - 第七 伯林 三六フランク
 - 第八 プレスラウ 三六フランク
 - 第九 コーペンハーグ 三五フランク五十サンチム
 - 第十 ゼーヌ 三一フランク
 - 第十一 ミューニツク 二七フランク
- 亞米利加合衆國ノ地方財政モ亦決シテ節儉ノ實アルヲ見ス該國ノ銀行雜誌千八百七十六年九月刊行ノ分ニ於テ市邑ノ負債發達ノ景況ヲ舉ルヨ見ル請フ余輩ハ其表ヲ掲出シテ該國大府ノ負債并ニ被稅財產ノ高ニ對スル負債ノ割合ヲ示シ

市 府	稅 財 產	負 債 元 金	被 稅 物 對 於 人 口 一 人 之 當 稅 資 本 一 千 卅 二 對 於 稅 負 債 之 高 市 稅 之 對 合
ニューヨーク	一、一〇〇、九四三、七〇〇	一、一六七、七三三、二四	一割二分六〇
バフハロー	三九、九六八、一〇五	七、二六四、二九一	一割八分六二
トレド	一九、七九八、五八〇	三、五五六、七五四	一割七分九〇
ブルックリン	二五、一七六、七五五	三、五〇三、二六三	一割五分五五
セントルイ	一六〇、二五七、七〇〇	一七、三四九、〇〇〇	一割二分七七
ボルチモール	一三三、五〇三、二一九	一四、三三三、四一七	一割二分五〇
シンシナチー	一八四、四九八、五八五	一九、二三四、〇〇〇	一割二分四二
フィラデルフィヤ	五九五、四三三、四七八	五九、六八六、二二三	一割二分〇〇
シカゴ	三〇三、七〇五、一四〇	一四、三三三、一七六	八分〇〇
ボストン	七九三、七六七、九〇〇	二七、〇八二、七七八	三分五八

サンフランシスコ 一、六四、三三九、四四四 三、四四一、〇〇〇 一分三三 三三、九〇〇 二二、〇〇〇

右十一府ノ負債元金ノ額ハ凡ツ十七億フランクニ達ス今巴里ノ負債高二十億フランクヲ超ルヲ以テ之ヲ見レハ右ノ額ハ蓋シ巨大ナルニアラスト雖モ亞米利加ノ市府ニ於テ借ル所ノ負債ノ利子ハ遙ニ我巴里府ニ於テ借ル所ノ者ヨリ高シ且ツバフハロー府ノ如キ負債高ノ被稅財產高ニ對スル割合一割八分以上ナルヲ以テ之ヲ見レハ其負擔實ニ大ナリト云フヘシ加之ナラス共殊ニ思トナスヘキハ該負債ノ増加頗ル急ナルニアリ

全雜誌ニ據レハ紐育府カ始テ負債ヲ起シタルハ實ニ千八百十二年六月八日ニアリ爾後該府公債ノ逐次増加シタル者左ノ如シ

年代 負債元金 被稅資本ニ對スル負債ノ割合
 千八百三十年 七七四、五五六弗 〇分六一

千八百四十年	一〇、七七五、三八六弗	四分二五
千八百五十年	一二、二〇五、一七六弗	四分二六
千八百六十年	一八、九〇一、四四〇弗	三分二一
千八百六十五年	三五、九七三、五九七弗	五分九一
千八百六十九年	四七、七九一、八四〇弗	四分九五
千八百七十年	七三、三七三、五五二弗	七分〇五
千八百七十二年	九五、五八二、一五三弗	八分六〇
千八百七十三年	一一、六三六、三四七弗	九分四〇
千八百七十四年	一一、五二八、七九六弗	九分九七
千八百七十五年	一一、六七七、三七二弗	一分〇分六〇

紐育府公債ノ大ニ増加シタルハ實ニ千八百六十九年以降ニシテ最後ノ四五年間該府ノ政類敗シ奸官汚吏盛ニ公金ヲ私セシハ吾人ノ知ル

所ナリ是等ノ非常ナル實蹟ノ有無ニ關セス右ノ表ニ由テ此五十年以降殊ニ二十五年以降各國ノ市邑ハ皆巨大ノ經費ヲ要シ爲メニ良善ナル地方財政ノ法ヲ立ルヲ妨ル所以ヲ見ルニ足ラン

余輩ハ此篇ヲ終ルニ方リ我巴里府ノ狀ヲ略述セン千八百十三年ニ巴里ノ人口ハ六十二萬二千人ニシテ經常豫算ノ額二千三百萬フランク其府民一人ノ負擔ニ當ル者三十七フランクナリ王政復古政府ノ時ニ方テハ其豫算高三千二百萬フランクニシテ七十一萬三千ノ人口ヲ有セリ即チ一人ニ付四十五フランクニ當ル者ナリ而シテ千八百五十年ニ至ルマテ其比例異同ナク同年ノ歲計ニ於テハ該府經費ノ割合居民一人ニ付四十四フランクニ當リ千八百六十九年ニ於テハ該府ノ人口百八十萬歲計ノ額一億六千八百萬フランクニシテ居民一人ニ付九五フランクニ當リ千八百七十九年ニハ經費ノ額二億二千二百萬フラ

ンク「トナリ」居民一人ノ負擔百十「フランク」トナレリ然ラハ則チ千八百十三年以降該府人口ハ凡ソ三倍ノ増加ニシテ歲計ノ増加ハ殆ト十倍ニ達セシ者ナリ

巴里府ノ收入ハ四箇ノ財源ヨリ得ル者トス

第一 府有財産ノ收入該府ニ於テ特占ヲ許シタル營業ノ賦金及租稅ノ性質ヲ有セサル納金

第二 間稅

第三 直稅

第四 中央政府ノ補助金等

第一項收入ノ緊要ナルハ余輩已ニ前篇ニ説ケリ今千八百七十九年ノ豫算案ニ叙述スル所ヲ見ルニ左ノ諸目ヲ含有ス

貸附金利息罰金及獵免許收入

五、六〇五、七〇〇フランク

市邑不動産ノ收入	一、二八九、一六八フランク
學校收入遺物及寄附金	二、五二〇、二〇〇フランク
市場收入	六、九四五、九〇〇フランク
屠場收入	二、九五〇、〇〇〇フランク
度量權衡收入	三四四、〇〇〇フランク
公証交付料及動產賣拂代	二五八、〇〇〇フランク
倉庫料	二、一〇〇、〇〇〇フランク
葬式稅	八五七、一四五フランク
埋葬地賣拂代	一、七二一、七〇〇フランク
公道貸賃	九〇四、八一五フランク
塵溜場料	六〇〇、〇〇〇フランク
諸事業及點火ノ爲ニスル人民寄附金	五、九九一、五九五フランク

瓦斯會社ノ上納金
 用水會社ノ上納金
 塵溜糞除下水
 物品及土地賣拂代
 諸收入

八、五〇〇、〇〇〇フランク
 九、八八六、六五七フランク
 一、五九三、五〇〇フランク
 二、〇〇六、〇〇〇フランク
 一、一四一、二六七フランク

合計

五三、四一〇、二四七フランク

表中第一項獵免許ノ收入ニ附加スル所ノ他ノ諸收入アレトモ今之ヲ區分スル能ハス第四項市場收入中純然タル租稅ヲ含有スト雖モ其最大部分ハ場所及客車置場稅ノ收入トナス
 右五千三百萬フランク中財産ノ收入否ナ府廳ノ盡シタル職務ニ對スル手數料ノ性質ヲ有スル者最モ多シ此種ノ收入ハ他日頗ル發達スヘシ殊ニ瓦斯會社用水會社ニ允可シタル期限滿ル時ハ其收入大ニ増加

スヘシ

第二項ノ收入即チ間稅ハ左ノ財源ヲ以テ成ル

市邑入市稅

一二六、七〇三、一〇〇フランク

客馬車稅

四三三、〇五〇、〇〇〇フランク

合計

一三一、〇三三、六〇〇フランク

第三項即チ直稅ノ收入ハ左ノ財源ヲ以テ成ル

市邑副稅特別稅犬稅

二四五、七六六、〇〇〇フランク

掃除稅

二六〇、〇〇〇、〇〇〇フランク

合計

二七一、七六六、〇〇〇フランク

末項ノ中央政府補助金ハ左ノ二目ヲ以テ成ル

巴里鋪石ノ維持費又ハ改良費へ中央政府及縣交付金

三四〇、〇〇〇、〇〇〇フランク

警察費へ中央政府ノ交付金

七、六九三、〇〇〇フランク

合計

一一、〇九三、〇〇〇フランク

右ニ歴叙スル所ニ由テ之ヲ見レハ千八百七十九年ノ豫算ニ於テ市邑入市税ノ收入高ハ一億二千六百萬フランクニシテ歲計ノ惣額二億二千二百萬フランクニ對スレハ其半額以上ハ供給ヲ該税ノ收入ニ仰ク者ト云フヘキナリ

其事業ノ公益タルト驕奢タルトヲ問ハス將來縣邑ノ經費ハ從來ノ如ク多カラサルヲ望ムコトヲ得ヘキカ如何トナレハ道路ヲ善美ニシ建築ヲ強固ニシ粧飾ヲ美麗ニスル等ノ大土木ヲ要スルコト今後ハ往日ノ如ク急ナラサルヘケレハナリ若シ果シテ此ノ如クナラハ市邑ノ負擔漸ク減シ巨額ノ新債起ラス市府ノ繁榮益盛ナルヘク府民ノ負擔大ニ輕減スルヲ得ヘシ一方ニハ府有財産ノ收入用水瓦斯等ノ營業允

可ノ爲メニ收入スル者ハ大ニ増加セン然ラハ則チ余輩ハ子孫ニ至ラハ市邑費大ニ減シ地方稅著シク輕減スルノ日アルヲ期スヘキナリ實ニ當世紀ニ於テ起工セシ公益ノ大業多シ後世子孫坐ラ共所用ヲ恣ニスルノ惠ヲ受ルニ至ラン

抑モ諸國ノ地方皆財政ノ處理宜キヲ失ヒ放逸濫費ノ弊盛ニ起ルルハ中央政府ヲシテ地方行政ノ監督制御ヲ嚴ニスルノ要ヲ覺ヘシムヘキナリ英國ニ於テハ佛國ト均ク地方ニ於テ公債ヲ起スノ權ヲ制限セリ合衆國ノ諸州ニ於テモ憲法ヲ以テ同一ノ制限ヲナス者少ナカラス諸大府ノ無謀濫費ハ已ニ甚シ然レトモ歐洲諸大國政府ノ無謀濫費ニ至テハ方今ニ至ルマテ未タ其比ヲ見サルナリト云フモ敢テ不可ナカルヘシ

余カ著書佛國及英國地方政治并ニ千八百七十八年一月及五月刊行

大藏省出版統計及立法比較官報ヲ見ルヘシ

第十六篇

租稅輕減 稅率ノ效驗 收入増加 租稅ノ負擔轉ノ顯象 諸級
人民租稅ノ負擔 第一卷結論

已ニ前篇ニ於テ開明諸國ニ行ハル、各種ノ租稅ヲ論シ其得失及實際
ノ負擔ヲ研究セリ今ヤ本書第一卷ヲ結フニ當リ余輩ハ只諸篇ノ意ヲ
通論約說セント欲ス

學理上ニ於テ最モ得ル所アルノ一點ハ巨額ノ負債ヲ有シ又巨萬ノ軍
隊ヲ維持セント欲スル國ニシテ數種ノ租稅ヲ課セサルヘカラサル場
合ニ於テハ複稅ヲ行フハ止ヲ得サル者アリト雖モ其極端ニ走テ無數
ノ租稅ヲ課スルヲナキヲ要スト云フニアリ殊ニ間稅ノ如キハ大ニ生
産ヲ妨ケス甚キ不公正ヲ行ハス細民ニ課スルヲ重キニ過ルナクシテ
稅スルヲ得ヘキ少數ノ物品ヲ撰フヲ要ス其負擔少シク重キモ少數ノ

物品ニ課スルハ輕フシテ夥多ノ物品ニ課スルニ勝ルモノトス佛國ノ如キハ少シク租稅ヲ重課スルモ妨ケナキ者ヲ砂糖咖啡煙草ノ諸品トナス共紙稅蠟燭及ステアリン稅石鹼稅葡萄酒稅シコレ一稅ヲ行フニ當テ大ニ是等諸品ノ租稅ヲ輕減スルハ不可ナリ抑モ一國ノ歲入餘アリテ人民負擔ノ一部ヲ輕減セント欲スル時ハ單ニ一ノ租稅ヲ全廢スヘキカ若クハ諸種ノ租稅ヲ減少スヘキカノ論題ヲ生スヘシ通例政府及議院ハ第二段ノ議即チ諸種ノ租稅減少說ヲ行フノ傾キアルモノトス如何トナレハ種々ノ利益ニ關シ甲ニ利セントスレハ乙ノ利トナラス共利益相撞着スルカ爲メニ遂ニ成ルヘク廣ク利益ヲ及ホサント欲スルニ至レハナリ是レ政治上ニ於テハ良手段ナルヘキモ財政上經濟上ニ於テハ決シテ良策ニアラサルナリ之ヲ實地ニ徵スルニ僅ニ租稅ヲ減スルハ被稅者ノ利タルヲ甚タ小ナリトス此

ノ如クナレハ物品ノ小賣價ハ租稅減少ノ割合ニ減スルモノニアラス中間ニアリテ媒介ヲナス者獨リ其利ヲ專ニスヘシ例ハ砂糖稅一「キログラム」ニ付一二ス「」ヲ減シ咖啡稅一「キログラム」ニ付四「ス」若クハ五「ス」ヲ減スル時ハ消費者殊ニ小量ヲ買フ者ハ小利益ヲ受ケサルニアラサルヘシト雖モ物價ノ下落小ニシテ國民ノ多數ニ於テ其下落ヲ感シ該物品ノ消費ヲ増加スル程ノ功能ナキヲ以テ僅々タルノ稅額ノ減少ハ大ニ物品ノ消費ヲ發達スルニ定ラサルナリ試ニ今茲ニ某政府ニ於テ歲入ノ超過額一億フランクヲ有シ之ヲ以テ租稅ヲ輕減セント欲スルヲアリトセン余輩ヲ以テ之ヲ見ルニ此ノ如キ場合ニ於テ政府ハ同時ニ八種若クハ十種ノ租稅例ハハ記錄稅郵便稅砂糖稅咖啡稅葡萄酒稅ニ就テ各々微々タル減少ヲ行フヤ必セリ此ノ如キ優柔ナル措置ハ利スル所甚タ小ナリ寧ロ其歲入超過額ヲ以テ

專ラ一ニノ用ニ供シ例ヘハ大ニ郵便税ヲ減シ其收入五分ノ二若クハ
 三ヲ損シ又記録税中其重キ不動産ノ讓渡ニ課スルカ如キモノヲ減ス
 ルノ好キニ如カス若シ果斷勇決此二者ヲ行ハ、其國民ヲ利スルコト
 數種ノ租税ニ就テ小減少ヲ行フヨリ遙ニ大ナルヘシ凡ソ逐次改正ヲ
 行フニ當テハ其枉クヘキヲ枉ケ届スヘキヲ届スルヲ知ラサルヘカラ
 ス英決斷行實功ヲ收メ改正ヲシテ完全ナラシムルヲ力メサルヘカラ
 ス一時ニ百事ヲ創メ夥多ノ關係人ニ各々些少ノ手附金ヲ與ヘ誰アリ
 テ大ニ利ヲ得ル者ナク又ハ明カニ利ヲ被ル者ナキハ是レ政治界ノ吝
 嗇ト云フヘキノミ

然ルニ政府カ巨大ノ經費ヲ要スルニ當リ巨額ノ收入ヲ得ルニ足ル所
 ノ租税ニ至テハ此ニ異ナリ若シ普通諸國ニ行ハル、所ノ租税ニシテ
 敢テ大不便ナク又一旦其組織ヲ廢スル時ハ忽然急ニ之ヲ再設スル能

ハサル如キ者ハ假令政府ノ財政寬裕ニシテ之ヲ廢スルヲ難ンセサル
 時ト雖モ決シテ之ヲ全廢スヘカラス如何トナレハ今日ハ財源ヲ要ス
 ル所ナキモ明日ハ又必需ノ財源トナルヘキコアルヲ以テナリ例ヘハ
 現今英國ノ如キハ歳入税ヲ廢スルコト難キニアラス故ニ英國ノ被稅者
 ニ黨スル者ハ數々政府ヲシテ之ヲ廢セシメンコトヲ謀レリ然ルニ余輩
 ヲ以テ之ヲ見ルニ其策ノ採用セラレサルヘキ理由ニアリ

第一 歳入税ハ已ニ前篇ニ於テ証明シタル如ク正當ノ租税ナルコ
 第二 歳入税ハ英國ノ財政上ニ於テ緊要ナル機關タルコト是レ即今
 大ニ余輩ヲ感悟セシムル一點タリ如何トナレハ該税ハ急危
 ノ時ニ當リテ最大ノ收入ヲ得ヘキ所ノ一税ナルヲ以テナリ

千八百七十六年度ニ於テ英國ノ歳入税ハ一「ポンド」ニ付三「ペンス」即チ
 百「フランク」ニ付一「フランク」二十三「サントーム」ノ割合ニシテ其收入僅

ニ一億三千二百萬フランクニ過キス然ルニ一朝事アルニ方リ政府カ
 巨大ノ經費ヲ要スル時ハ稅率ヲ増シテ百フランクニ付五フランクノ
 割合トナレ以テ五六億フランクノ收入ヲ得ルハ難キニアラス此一事
 ヲ以テモ一國歲入ノ要項タル租稅ヲ廢スヘキモノニアラス財政ノ緩
 裕ナル時ニ於テハ只宜ク其稅率ヲ減シテ最低點トナスニ止ルヘシ實
 ニ國民カ久ク慣ル、所ノ租稅ヲ倍シ又ハ之ヲ三倍スルハ新ニ一稅ヲ
 設置スルヨリ遙ニ容易ナル者ナレハナリ
 某消費ニ課スル所ノ租稅殊ニ工業者商業者若クハ消費者ヲシテ種々
 ノ煩則ニ服セシメ無數ノ困難ヲ被ラシメ漫ニ時間ヲ失ハシムルニア
 ラサレハ徵收スル能ハサル者ノ如キハ前陳ノ理由ヲ以テ推スヘカラ
 ス實ニ消費稅ニ至テハ改正ノ實功ヲ收メント欲セハ大ニ稅率ヲ減セ
 サルヘカラサルノミナラス時トシテハ之ヲ全廢セサルヘカラサル

少ナカラス就中石鹼稅ステアリン稅紙稅ニ於テ然トナス葡萄酒稅ニ
 於ルモ亦然リ是等諸稅ノ場合ニ於テハ政府ニ納ル所ノ稅額カ獨リ被
 稅者ノ負擔トナルニ止ラス營業ノ進歩ヲ害シ製造賣買ノ自由ヲ妨ル
 少ナカラサル者トス然ラハ則チ政府ノ歲入餘リアリ之ヲ以テ租稅
 ノ改正ニ供セント欲スル時ハ再決斷行完全ノ結果ヲ求ムヘシ若シ租
 稅ノ全廢ヲ行ヒ得ヘクハ須ラク之ヲ行フヘシ假令將來事アルニ當テ
 ハ少シク國庫ノ補助トナルヲ得ヘント雖モ營業ノ費用ヲ増大ニシ營
 業ヲ妨害スルコト甚キ所ノ租稅ニ至テハ之カ爲メニ永遠ニ繼續スヘキ
 理由トナスニ足ラサルナリ
 眞ニ被稅者ヲシテ租稅輕減ノ利ヲ被ムラシメント欲セハ其輕減ヲ大
 ニセサルヘカラス否ラサレハ國庫ノ收入ヲ減スルニ止リテ被稅者ノ
 利益トナルヲ得ス嘗テ巴里府ノ市邑入市稅ニ於テ生シタルモノハ之

ヲ証スルノ好例ト云フヘシ千八百三十年十二月二十八日ニ於テ巴里府ハ飲料品ノ入市税ヲ減シテ恩惠ヲ府民ニ施サントセリ然ルニ遂ニ其價ハ下落セス消費ハ増加セス只獨リ小賣商カ其恩惠ヲ蒙レリ是レ其輕減ノ小ナリシニ由ル而シテ又一ニハ時ノ騷亂ニ會セシニ由ルト云フヘシ

斯ノ如ク租税輕減ノ効驗ハ即時ニ見ルヲ得ヌ又ハ僅ニ租税ヲ輕減シタル商品ノ價ニ影響スルヲアリ即チ前篇ニ陳述レタル白耳義ノ市邑入市税廢止ノ後ニ於ルカ如キ是ナリ千八百四十八年四月十八日假政府ノ時巴里府ノ市邑入市税ニ於テ肉ニ課スル所ノ者ヲ廢セリ然レトモ久シカラステ再ヒ之ヲ復セリ此肉税停止ノ暫時間ニ於テ富民ノ居住スル部分ハ其價下落セリト雖モ細民ノ間ニテハ肉價ノ變動ヲ見サリシヲ以テ從前該税ヨリ巴里府ノ庫中ニ收入セシ所ノ者ハ廢税

後中間者ノ利スル所トナリテ租税ノ輕減ハ假令大ナリト雖モ消費者ノ利トナラサル者ナリト稱スル者アリト雖モ此ノ如ク斷言スルハ頗ル輕率ノ論理タルヲ免レス抑モ千八百四十八年肉税廢止ノ時間ハ短キニ過キ其當時ニ現ハレタル事實ハ眞理ヲ証明スルニ足ラス且ツ其時代ハ騷擾ノ時ニシテ規則ノ立チタル取引ヲ行フニ能ハヌ又商賈ノ費用ヲ減スルニ足ラサリシヲ以テナリ

千八百四十八年市邑入市税ヲ減シタルニ拘ラス肉價ハ下落セシ程ノヲナカリシ所以ヲ示スニ足ルヘキ一ノ事實ハ當時紛擾ノ際屠者ハ容易ク殘餘ヲ工業者ノ使用ニ賣ルヲ能ハサリシト云フヲ是ナリ且ツ當時肉ノ價ハ富民ノ間ニ於テ下落シ細民ノ間ニ於テ動カサリシト云フヲ以テ之ヲ見レハ蓋シ細民ニハ掛賣ヲナシタルニ由ルヘ

加之ナラス白耳義ノ市邑入市税ニ於テ見ルカ如ク租税輕減ノ效驗ハ互ニ物價ヲ下落セスシテ其騰貴ヲ緩メ物品ヲ改良ト奸策ヲ止ムルニ至ルコアルヘシ又時トシテハ一物品ノ租税ヲ減セタルカ爲メニ租税ノ變動ナキ他ノ物品ノ消費ヲ増加スルコアリ例ヘハ今大ニ咖啡ノ税ヲ減スル時ハ砂糖ノ消費ヲ増加スヘキカ如キ是ナリ

試ニ今新ニ佛國ニ於テ書翰ノ税二十五サンチムナルヲ減シテ二十「サンチム」トセン然ル時ハ其利益タルヤ疑ヲ容レス而シテ此時ニ於テハ消費者ト國庫ノ間ニ介立スル者ナキヲ以テ其利益ヲ受クヘキ者ニ通信ノ發達ヲ來タスニ足ラサルヤモ計リ難シ然ルニ之ニ反シテ賦税ヲ減スルコト二十五サンチムヨリ十五サンチムニ至ラハ書翰往復ノ習俗ヲ變更シ從來盛ニ通信ヲナサハル人民カ書翰往復ヲナスニ

至リ通信ノ發達ヲ見ルヘキナリ

世ニ租税ノ増減ヲ以テ物品ノ消費及租税ノ收入上ニ於ル效驗ヲ論スル者多シ或ル淺慮ナル經濟家ハ漫ニ臆斷ノ格言無慮ノ論理ヲ唱ヘ諸家ノ駁撃ヲ受ケ或ハ無識ノ實務論者ノ嘲笑ヲモ免レサル者アリ本書ノ前諸篇ヲ熟讀玩味セシ者ハ此緊要ナル論題ニ於テ自ラ悟ル所アラ

元來一切ノ租税ニ於テ最大ノ收入ヲ得ヘキ税率アリテ之ヲ超ユルモ又之ニ及ハサルモ國庫ノ收入ヲ減スヘキ者トス若シ右ノ税率ヲ過クレハ奸詐密賣ヲナスカ若クハ消費ヲ減少シ其收入從テ減スヘク之ニ反レテ若シ其税率右ニ及ハサレハ消費ヲ發達スルモ充分ノ收入ヲ得ルニ足ラス然ルニ其最大ノ收入ヲ得ヘキ税率如何ヲ發見スルハ單ニ實驗ニアリ敏捷ナル者ハ各々其場合ニ就テ洞察シ殆ト右ノ點ニ近キ

者ヲ覺知スルヲ得ヘシト雖モ學理上ニ於テハ只一般ニ嚮導トナルヘキ者ヲ示スヲ得ルノヨリ賢明ナル立法者ハ收入ノ最大點ヲ求ント欲レテ之ヲ超過スルノ危險ヲ侵サンヨリ寧ロ其以下ニ止ランコトヲ欲スル者ナリ合衆國ニ於テ數々實行シタル如ク若シ其點ヲ超過スル時ハ只ニ直接ニ國庫ノ收入ヲ減スルノミナラス間接ニ商業工業及消費者ニ損失ヲ來タシ其不幸實ニ小ナラス

世ニ或ハ租稅ノ收入ヲレテ最大ナラシムル方法ハ稅率ヲ減スルニアリトノ虛妄ナル格言ヲ以テ經濟家ノ唱ル所ナリト考ル者アリ淺見論者ニアラサレハ此ノ如キ語ヲ著載スル者アラサルヘシ抑モ租稅ヲ輕減スル時ハ假令一般ニ否ラサルモ收入ノ最大ナル稅率ヲ超過セサル時ニ於テ即時ニ國庫ノ收入ヲ増加スルモノニアラス租稅輕減ノ初年ヨリシテ大ニ消費ノ發達ハ急ナル者ニアラス通例ハ數年ヲ要シ時ト

レテハ減稅後三四年ニシテ減稅以前ノ收入額ニ復シ時トシテハ十五年二十年若クハ二十五年ヲ經サレハ從前ノ收入額ニ復スル能ハサルコアリ

一方ニハ又稅率ヲ増加スル時ハ稀レニ立法官カ短慮ニシテ非常ノ稅率ヲ施シタル場合ノ外ハ直ニ租稅ノ收入ヲ増加スヘシ然ルニ久キヲ經レハ其増加ハ往々實際ノ増加ニアラスシテ外見ノ増加ニ歸スル者少ナカラス如何トナレハ稅率増加ノ爲メニ急ニ消費ヲ減セスト雖モ輕稅ノ時ニ於ルカ如ク消費ノ發達速カナルヲ得サレハナリ例ヘハ前篇ニ陳セシ如ク佛普戰爭後佛國ニ於テ郵便稅ヲ増シテ二十「サンチー」ヨリ二十五「サンチー」トナシ當初ニ於テハ收入ノ増加稅率ノ増加ト相應セリ然ルニ毎年ノ收入増加ノ割合ヲ減シタルヲ以テ國庫ノ收入ニ至テハ管見論者ノ考ルカ如ク實際得ル所ノ大ナラサルヤ疑ヲ容

右ノ顯象ヲ解スルハ敢テ難キニアラス元來消費ニ課スル租税ノ増減ハ多少人民ノ習俗ヲ變動スル效驗ヲ有スルモノトス是レ租税ヲ輕減スレハ消費ヲ増加シ租税ヲ増加スレハ消費ヲ抑制スルヲ以テナリ然ルニ人民ノ習俗ハ瞬時ニ變更スルモノニアラス必スヤ多少ノ時日ヲ要スルモノナリ故ニ今砂糖税一キログラムニ付十五若クハ二十サンチムヲ増加スルモ其初メハ砂糖ノ賣高毫モ減少スルコトナカルヘシ然レトモ人民ノ或ル者ハ漸次ニ少量ノ消費ヲ減スルカ又ハ從前ノ如ク消費スルニ止リテ毎年消費ノ増加ヲ減スルニ至ルヘシ税率減少ノ場合ハ其事實之ニ反シ突然其消費ヲ増加セサルモ毎年消費發達ノ進歩一層速カナルニ至ラン

税率ノ輕減カ物品ノ消費ト租税ノ收入ニ如何ナル影響ヲ來スヘキヤ

ヲ豫知セント欲セハ新税ヲ以テ舊税ニ比較スルヲ以テ足レリトセス尙ホ新税ヲ以テ商品ノ小賣價ニ比較セサルヘカラス租税ノ減少ハ大ナルモ商品ノ少賣價ニ對シテハ僅ニ小部分ナルコトアルヘシ然ル時ハ租税輕減ノ影響ハ甚タ大ナラサルヘキヤ明カナリ例ヘハ若シ此ニ五七サンチムノ價格ナル商品ニ十サンチムノ租税ヲ課スル者アリ今其税ヲ減レテ五サンチムトセハ五割ノ減少ナルヲ以テ其輕減ハ甚タ大ナルモ消費ノ發達ニハ影響ヲ生スルコトナカラン右ノ如キ場合ニ於テハ租税ノ増加モ消費者ヲシテ之ヲ覺ヘシメサルヘシ之ニ反シテ若シ舊税ノ率ハ商品ノ價格ニ均キカ若クハ之ニ超過セタルニ今其半ヲ減スルカ又ハ増加スル時ハ大ニ其賣價ニ影響ヲ來タシ從テ消費ニ影響ヲ及ホスコト亦大ナルヘシ

然ルニ尙ホ其物品ハ國中ニ於テ驕奢品ト見認ル者ニシテ專ラ富民ノ

ミ之ヲ使用シ中等人民ハ僅ニ宴會ノ時ノミ之ヲ使用スル者ナルカ又ハ之ニ反シテ一般公衆ノ消費スル所ノ者ナルカヲ區別スルヲ要ス第一ノ場合ニ於テハ租税ノ増減ハ消費ニ即時ノ影響ヲ來タスコト小ナルヘク試ニ咖啡ノ税ヲ研究セハ毎年消費ノ發達ニ感スル所ヲ見スレテ税率ニ三倍ノ變動ヲナシタルコトアルヲ見シ其此ノ如クナル所以ノ者ハ咖啡ハ重ニ富民ノ消費スル所ニシテ細民ハ咖啡店ニ於テ消費スルニ止ルニアリ富民若クハ中等人民ノ咖啡ヲ嗜ム者ハ其租税カ百「キログラム」ニ付五十「フランク」ヨリ百「フランク」若クハ百五十「フランク」トナリシトテ之カ使用ヲ減スルコトナカルヘク實ニ「キログラム」ノ咖啡ヲ以テ多量ノ飲料ヲ製スルヲ得レハナリ下民若クハ勞力者ノ輩ニ至テハ咖啡店集會席ニアラサレハ咖啡ヲ喫スルモノニアラス是等ノ場合ニ於テ賣ル所ノ咖啡一碗ノ價ハ租税ト原品ノ價ノヨヲ以テ成ルモノ

ニアラス其後一切ノ費用ヲ含有スル者ニシテ價ノ原素ハ店費ヲ以テ多シトス故ニ其租税ニ五割ヲ増加スルモ小賣價ニ著シキ變動ヲ生スルニ足ラサルヘシ然ルニ年月ヲ經レハ一般ノ消費品トナルヲ得サル所ノ驕奢品ハ絶無僅有ナル者ニシテ割合ニ舊時ニ於テ咖啡消費ノ發達ハ租税増加ノ爲メニ妨ケラレサルヲ以テ假令該税ヲ減少スルモ其消費發達ヲ促カスニ足ラサリシナラント云フヲ得サルナリ又時トレテハ税率ノ増加カ幾分カ被税品生産費ノ減少ニ由テ償補セラル、コトアリ是レ余輩カ前篇ニ於テ陳述セシ如ク酒精ノ税ニ於テ見ル所ニシテ當時酒精ノ原價五分ノ四ヲ減シタルヲ以テ其税率ヲ五倍シタルモ敢テ其消費ヲ減スルコトナカリシナリ之ヲ約言スレハ租税ヲ増加スルハ之ヲ輕減スルヨリハ通例即時ニ國庫ノ收入ヲ増加スルヲ得ル者ナリ然レトモ永年ノ間ニ收入ヲ得ル點

ヨリ之ヲ見レハ稅率ヲ増加スル時ハ毎年ノ收入増加ヲ止ムルカ又ハ其割合ヲ減スヘク之ニ反シテ大ニ稅率ヲ輕減スル時ハ毎年收入ノ増加ヲ獎勵シ其歩合ヲ増加スヘレ

租稅輕減ノ物品消費ニ於ル影響ノ著シキ例証ハ英國ノ砂糖稅ニ於テ之ヲ見ルヘレ左ニ該稅ノ輕減ニ由テ砂糖ノ消費ヲ變動セシ景況ヲ示サン千八百四十四年前ハ英國ニ於テ外國產ノ砂糖ニ對シテ殖民地產ノ砂糖ヲ保護セリ然ルニ千八百四十四年ニ該品ニ不同稅ヲ課スルヲ廢セリ

年代

千八百四十四年	自由貿易ノ主義ヲ採用シ英國殖民地產ノ砂糖ニ同一ノ稅ヲ課スルニ至リシ時	一二三七、一四三噸
千八百六十四年	英國佛國自其後荷蘭ノ間ニ砂糖會館ヲ開キタル時(租稅輕減)	五二九、九一九噸
千八百六十九年	品位ニ從ヒ五十二キログラムニ至リシ時(租稅輕減)	六二二、六九二噸

砂糖消費高

千八百七十年	稅率半減即チ品位ニ從ヒ五十二キログラムニ至リシ時(租稅輕減)	六九五、〇二九噸
千八百七十一年	全率	六九七、三九二噸
千八百七十二年	五月稅率半ヲ減シ品位ニ從ヒ五十二キログラムニ付ニ「フランク」五十二「サンチム」乃至三「フランク」七十五「サンチム」トナス	七一五、〇〇〇噸
千八百七十三年	四月稅率半ヲ減シ品位ニ從ヒ五十二キログラムニ付ニ「フランク」五十二「サンチム」乃至三「フランク」七十五「サンチム」トナス	七七九、〇〇〇噸
千八百七十四年	四月稅率半ヲ減シ品位ニ從ヒ五十二キログラムニ付ニ「フランク」五十二「サンチム」乃至三「フランク」七十五「サンチム」トナス	八三〇、〇〇〇噸
千八百七十五年	無稅	九二〇、〇〇〇噸

右ノ場合ニ於テハ租稅輕減ノ消費上ニ於ル影響ハ頗ル著ルシ千八百六十九年以後砂糖使用ノ發達ハ甚タ盛ニシテ六年ニシテ其消費五割ヲ増加セリ而シテ右ノ年間ニ砂糖ノ租稅ヲ輕減シ次テ之ヲ全廢シタルト同時ニ茶及咖啡ノ稅ヲ輕減シタルヲアルヲ忘ルヘカラス是等ノ諸改正ハ英國人民ノ一大利益タルヤ疑フヘキモノアラサルナリ

若シ進テ國庫收入ノ點ヨリ之ヲ見レハ租稅ノ輕減ハ即時ノ利益トナ

ラサルヲ承認セサルヘカラス請フ左ニ千八百六十年以降英國砂糖税ノ收入高ヲ示サン

年代	砂糖收入高
千八百五十九年度	一五〇、一七七、〇〇〇 ^{フラン}
千八百六十年年度	一五一、六八四、〇〇〇
千八百六十一年年度	一五九、五八二、〇〇〇
千八百六十二年年度	一六〇、六九八、〇〇〇
千八百六十三年年度	一五三、六九七、〇〇〇 <small>(此年度ニ於テ税率凡ソ四分ノ一ヲ減ス)</small>
千八百六十四年度	一三一、三〇六、〇〇〇
千八百六十五年年度	一三〇、七一、〇〇〇
千八百六十六年度	一四一、一九四、〇〇〇

千八百六十七年度	一三九、五六一、〇〇〇
千八百六十八年度	一三七、六〇一、〇〇〇
千八百六十九年度	一三四、九一四、〇〇〇
千八百七十年度	八〇、四七〇、〇〇〇 <small>(此年税率半ヲ減ス)</small>
千八百七十一年度	七九、四九八、〇〇〇
千八百七十二年度	八二、一〇一、〇〇〇
千八百七十三年度	四六、〇七九、〇〇〇 <small>(此年再ヒ税率半ヲ減ス即チ千八百十九年ニ於ル四分ノ一トナル)</small>
千八百七十四年度	一六八、八〇〇、〇〇〇 <small>(此年度ニ於テ砂糖税ヲ廢ス)</small>

右ノ表ハ前表ヲ補ヒ多少之ヲ修正スル者ニシテ租税ノ輕減ハ直ニ國庫ノ收入ヲ増スニ足ラサルヲ示ス者ナリ則チ千八百六十三年度ニ於テ砂糖税凡ソ四分ノ一ヲ減シ千八百六十四年度ノ收入ハ減税ノ前年

即チ千八百六十二年度ノ收入ニ比スレハ二千九百萬フランク即チ一割八分ヲ減セリ而シテ五年ノ後再ヒ該稅ヲ減スルニ至ルマテ遂ニ前年ノ收入ヲ復セス千八百七十年度ニ於テ再ヒ該稅率ノ半ヲ減シ其收入ハ一億三千五百萬乃至一億四千萬フランクヨリ減シテ八千萬フランクトナリ實ニ四割乃至四割二分ノ損失ヲ來セリ千八百七十三年度ニ於テ又該稅ノ輕減ヲ行ヒ益右ノ事實ヲ証明セリ則チ當年ニ於テ該稅率半ヲ減シテ其收入ハ八千二百萬フランクヨリ四千六百萬フランクトナリ四割三分乃至四割四分ノ損失ヲ來セリ由是觀之ハ租稅ノ過重ナラサルニ當リ國庫ノ收入ヲ増スヘキノ意ヲ以テ租稅ヲ輕減セント欲スルハ一ノ迷妄ト云フヘキナリ

然ト雖モ尙ホ一方ヨリ之ヲ見レハ租稅輕減ノ爲メニ大ニ消費ヲ發達スルハ巨大ノ利ヲ有スルモノニシテ政府ニアリテモ間接ノ利益トナ

ル者ナリ則チ砂糖消費ノ擴張スルカ爲メニ諸營業ノ繁榮ヲ來タスコト少ナカラス假令全ク國庫ノ失フ所ヲ償フニ足ラスト雖モ種々ノ點ニ於テ國庫ノ利ナシト云フヲ得サルナリ

通信稅輕減ノ效驗ニ就テハ前篇ニ於テ之ヲ論セリ(本書第七篇ヲ見ルヘシ)

充分ニ效能アル租稅輕減ハ歲入ノ餘裕ヲ有スル政府ニアラサレハ之ヲ行フ能ハサルナリ英國ノ財務政策ハ此點ニ於テ頗ル研究スルニ味ヒアリ實ニ聰明富裕ニシテ且ツ五十年來未タ當テ巨費ニ困マサル國ニシテ始メテ斯ノ如ク英斷勇決一時歲入ノ減少ヲ顧ミサル改正ヲ行フヲ得ヘキナリ

經濟上最モ不動ニ最モ常勢ニ最モ幸福ナル一顯象ハ租稅自然ノ増加是ナリ余輩ハ已ニ數々本書ニ於テ其一般ノ事實ニシテ且ツ幸惠ナル

ヲ説ケリ(殊ニ本書ノ第四篇ヲ見ルヘシ)此自然ノ増加ナキハ特リ不繁榮ノ國ニアリ尤モ(例ヘハ)餓饉商業困難若シハ戰爭ノ如キ臨時ノ事アリテ暫時其進路ヲ止ルヲアリト雖モ久シカラスシテ舊勢ニ復スルモノトス此増加ノ原因ハ人口ノ増加國家生産力ノ増加農工ヲ盛ニスル所ノ器械上ノ發明常ニ現在ノ資本ヲ増加スル所ノ貯蓄及ヒ其急劇ナルト遲緩ナルトヲ問ハス交換ノ標準ニ用ル金銀價格ノ下落ニアリ都テ是等ノ原因ハ諸國ニ於テ常ニ同一ノ働キヲ租税ノ増加ニ及ホスモノニアラス例ヘハ金銀ノ下落ハ歴史ノ明カナルヨリ以降常ニ一定ノ方向アリ或ル國ニ於テハ人口ヲ増減セサルモノアリ然ルニ貯蓄ノ増加生産力ノ増加ニ至テハ其國ノ衰頽ニ趣クニ至ルマテハ必ス諸國ニ於テ見ル所ノ顯象タリ都テ此ニ枚舉スル所ノ者ハ生産消費取引ノ度數及其高ノ増加ニ由テ皆其影響ヲ租税ノ收入ニ及ホスヘキモノナリ

歲計ノ平均ヲ謀ルニ毎年ノ租税自然ノ増加ヲ算スルハ決シテ宜キヲ得タル者ニアラサルナリ如何トナレハ若シ或ル時代ノ間ニ就テ之ヲ見レハ租税收入増加ノ形況ハ規則立テ一様ナルモ往々一時ノ間斷アルヲ免レサレハナリ然ルニ要用ナル改正ヲ行フニ當テハ政治家ハ此自然ノ増加ヲ算シテ其計畫ヲナスヲ得ヘキ者トス彼英國人カ税法ヲ整理シテ生産上ニ有害ナル諸税ヲ廢止シタルハ此自然ノ増加ニ依賴セシ者ニシテ千七百年代佛國ノ革命及ナポレオン帝ノ戰爭以前ヨリ英國ノ破産ニ至ルヘキヲ唱ヘタル所ノ杞憂者ノ説ヲ破リシハ實ニ此自然ノ増加ニアリ

英國間税ノ自然ノ増加ハ間斷ナク千八百十五年ヨリ千八百六十九年ニ至ルノ間ニ於テ國庫ノ收入一倍餘ヲ増セリ實ニ英國ノ歲計上實際ノ收入カ收入豫算額ニ超過セサリシハ甚々稀ナリ若シ千八百六十九

年ノ財政要覽(コント、ゼチラル、デ、ラド、ミニ、オトラシオン、デ、ファイナンス) 五百十八葉ヲ披カハ千八百四十年ヨリ千八百六十八年ニ至ル各年度ノ收入豫算ト實收入ノ表ヲ見ルヲ得ン該表ニ據テ之ヲ見レハ右ノ年度間ニ於テ實收入ノ豫算額ニ及ハサリシハ僅ニ二年ニシテ他ノ二十年ハ實收入ノ豫算額ニ超過セシ平均三千萬乃至四千萬フランクノ間ニアリ

前篇第四篇ニ於テ余輩ハ租税自然ノ増加ハ通例間税ニ大ニシテ直税ニ小ナルヲ説ケリ只其例外ニアル者ハ歳入税及遺傳税ノ二トナス此二税ノ自然ノ増加ハ甚大ニシテ間税ニ異ナラス如何トナレハ此二税ハ税率ヲ改正セス又ハ賦課ヲ變更セサルモ被税物件ノ發達ニ應シテ其收入ヲ増加スルヲ以テナリ

租税自然ノ増加ヲ利用スルヲ得ヘキコトハ英國ノ例ヲ以テ明カニ之ヲ

証スルモノナリ英國ノ統計年表ニ據テ之ヲ見ルニ千八百五十年一月五日ヲ以テ終ル會計年度ニ於テハ英國ノ收入ハ十四億三千五百萬フランク(五千七百三十八萬五千六百五十八ポンド)ニシテ千八百七十五年三月三十一日ヲ以テ終ル年度ニ於テハ同國々庫ノ收入十八億七千五百萬フランク(七千四百九十二萬千八百七十三ポンド)トナリ千八百四十九年度ニ超過スルコト大約四億四千萬フランクナリ

(初メ英國ノ會計年度ハ一月六日ニ始マリ翌年一月五日ニ終リシニ後之ヲ改メテ四月一日ヲ以テ年度ヲ開キ三月三十一日ヲ以テ之ヲ終ル者トセリ)

此増加ヲ生スル爲メニ右ノ二十六年間ニ於テ租税ヲ増加シタルヤト云フニ決シテ然ラス却テ大ニ之ヲ輕減セリ千八百四十九年度ヨリ千八百六十三年度マテノ間ニ於テ税率ヲ輕減シ若クハ課税ヲ廢止シタ

ル者八億七千九百萬フランク(二千五百十五萬千八百十八ポンド)ニシテ税率ヲ増加シ若クハ新稅ヲ設置シタル者六億七千五百萬フランクナリ是故ニ此十五年間ニ國庫ノ收入ヲ損シテ被稅者ニ恩賜セシ者ハ實ニ二億四百萬フランクニ達セリ千八百六十五年以後千八百七十五年ニ至ル十年間ニ於テ租稅ヲ輕減シタルノ尙ホ遙ニ大ニシテ稅率ヲ輕減シ若クハ課稅ヲ廢シタル者六億九千二百萬フランク(二千七百六十六萬八千二百九十一ポンド)ノ巨額ニ達シ而シテ稅率ヲ増加シ若クハ新稅ヲ設置シタル者ハ僅ニ一億八千六百五十萬フランク(七百四十四萬九千二百二十三ポンド)ニ過キス故ニ此十年間ニ於テ英國政府カ其收入ヲ捨テ被稅者ニ附與シタル者ハ五億六百萬フランクトナス若シ之ニ加フルニ千八百五十年ヨリ千八百六十四年ニ至ル時代ニ放棄シタル稅額ヲ以テセハ千八百四十九年度以降英國ニ於テ輕減シタル

租稅ノ全額ハ七億千萬フランク即チ平均一ケ年二千八百萬フランクトナル然ルニ千八百七十五年ニ於テハ其收入ノ額千八百五十年ノ額ニ超ルノ尙ホ四億四千萬フランクアリ而シテ此二十五年間一大戰爭アリ即チクリミアノ戰爭是ナリ若シクリミアノ戰ナカラシメハ英國政府カ租稅ヲ輕減シタル惣額ハ千八百五十年以降千八百七十五年ニ至ル年間ニ於テ十億フランクノ巨額ニ達スヘキヤ蓋シ疑ヲ容レサルナリ

斯ノ如ク租稅ヲ放棄シタルハ重ニ四箇ノ原因ニ由ル

- 第一 新市場ヲ開キ生産ノ便ヲ増シ大ニ英國ノ民富ヲ發達セシ
- 第二 千八百五十五年及千八百五十六年ノ外此時代ニ於テ英國ノ平和ナリシ
- 第三 官費ヲ暴増セサリシト尤モ經費ノ増加ハ開明國ニ於テ免ル

能ハサル所ノ者ニシテ歐洲諸國ハ皆大ニ軍備ノ擴張ヲ以テ相競フカ爲メニ英國ニ於テモ多少政府ノ歳出ヲ増加セリ只大陸諸國ノ如ク非常ノ増加ナキノミ

第四 人口ヲ増加セシコ

佛國ハ此ノ如キ眞果ヲ生セサルモ租税自然ノ増加ハ敢テ小ナルニアラス又常ニ斷續不定ナルニアラス千八百七十年ノ戰爭以前ニアリテハ此増加ハ毎年四千萬フランクニシテ該戰爭以後ハ毎年五千萬乃至六千萬フランクニ達セリ

千八百七十四年ノ同税ノ收入ニ比較スレハ千八百七十五年ニ於テハ其自然ノ増加一億四千萬フランク千八百七十五年ノ收入ニ比スレハ千八百七十六年ニ於ル自然ノ増加三千七百萬フランクアリ千八百七十七年ニ於テハ魯土ノ戰爭商業ノ困難内國ノ人心不穩ノ爲

メニ千八百七十六年ノ收入ニ比シテ九百五十萬フランクノ減少アリ之ニ反シテ千八百七十八年ニハ郵便税電信料ノ改正アリシニ拘ラス千八百七十七年ノ收入ヨリ多キコ六千五百萬フランクナリ然ルニ佛國ハ數々戰爭内亂ニ會シ加フルニ政府ノ經費ヲ増加スルヲ意トセサルノ不幸ニ會セリ戰爭ハ租税自然ノ増加ヲ停止シ而シテ公債ノ増加ヲ醸シ租税ノ輕減ヲシテ益困難ナラシメ内亂モ亦均ク災厄ニシテ一國經濟ノ發達ヲ妨ケ加之ナラス佛國ノ執政家及立法官ハ租税自然ノ増加ヲ見ルヤ之ヲ以テ租税ノ輕減ヲ謀ルヲ思ハス忽チ之ヲ分テ各種ノ行政事務ニ供スルヲ常トセリ千八百十五年ヨリ千八百七十年ニ至ルマテ佛國租税ノ總額ハ未タ嘗テ其減少セシヲ見ス佞令某種ノ租税ヲ輕減スルモ直ニ新税ヲ設置スルカ若クハ他ノ舊税ノ率ヲ増シテ以テ之ヲ償補セリ例ヘハ千八百四十八年二月ヨリ千八百六十

四年ノ終ニ至ルマテ佛國ニ於テ租稅ヲ輕減シタル者三億三千七百五十萬フランクアリ然ルニ一方ニハ租稅ヲ増加シタル者三億二千八百五十萬フランクアリ故ニ輕減ノ増加ニ超過スルコト僅ニ九百萬フランクニ過キサルナリ之ニ反シテ同時ニ英國ニ於テハ租稅輕減ノ増加ニ超過セシ者二億四百萬フランクニ達セリ

若シ佛國ニシテ第十九世紀ノ末年ニ當リ常ニ平治ヲ樂ミ行政上節約ヲ力メハ此二十一年ニシテ生産ヲ妨害スル所ノ諸稅ヲ廢シ不平均ニシテ割合ニ富民ニ輕ク貧民ニ重キ所ノ租稅ヲ改正シ現今ノ稅額凡ソ十億フランクヲ減スルヲ得ヘキハ余輩ノ疑ハサル所ナリ果シテ斯ノ如クナラハ次ヲ逐フテ大ニ租稅ヲ減シ小急大急ノ運搬稅紙石鹼ステアリン摺附木等ノ如キ製造品ニ課スル諸稅殖民地產品ノ外他ノ物品ニ課スル關稅ヲ廢止若クハ輕減シ鹽稅ヲ廢シ大ニ郵便稅電信料記錄

稅印紙稅酒精稅葡萄酒稅ヲ減シ又市邑入市稅ヲ廢スルヲ得ヘシ

然レトモ旅客運搬稅ハ五分ノ輕稅ヲ課シテ之ヲ存スルモ妨ケナカルヘシ小急運搬稅及石鹼稅ハ已ニ千八百八十八年ニ之ヲ廢セリ又

同年郵便電信ノ改正ヲ行ヘリ

余輩ヲ以テ之ヲ見レハ鹽稅ヲ廢止スルハ農業ノ爲メニ好ムヘキコトナレトモ其運轉及製造ニ有害ナル諸稅ヲ存スルニ當テハ廢セサルモ可ナルヘシ

右ノ計畫ハ妄想ノ如シト雖モ英國ノ例ニ據テ之ヲ見レハ久ク平和ヲ樂ミ財政ノ處理宜キヲ得ル時ハ二十五年ニシテ著大ノ成績ヲ生スルニ足ルヲ証スヘシ加ルニ永遠公債ノ借換年賦公債ノ償却ニ由テ益租稅ヲ輕減スルノ便ヲ得ヘク又其效驗ハ前者ノ如ク大ナラサルモ直稅ノ改正ヲ行ハ、多少租稅輕減ノ便ヲ助クヘキナリ然ト雖モ余輩ハ此

ニ一言スヘキモノアリ租税自然ノ増加ハ佛國ニ於テハ其英國ニ於ルヨリモ稍々小ナルヘキコト是ナリ何トナレハ人口ノ増加ハ消費税ノ收入ヲシテ自然ニ増加セシムル所ノ一原因ナリト雖モ佛國人口ノ増加ハ英國人口ノ増加ヨリ小ナルヲ以テナリ千八百四十九年全英國ノ人口ハ僅ニ二千七百萬八ニシテ千八百七十五年ニ於テハ三千二百七十三萬七千六十人ニ達セリ是レ千八百四十九年ニ比スレハ千八百七十五年ニ於テハ消費者被税者ノ多キコト五百五十萬人ニシテ實ニ二割ノ増加ヲ致セシ者ナリ之ニ反シテ佛國ハ千八百七十五年ニ於テハ二十五年前ニ比シテ消費者被税者ノ多キコト僅ニ二百萬人即チ六分ヲ増加セシニ過キス由是觀之ハ兩國ニ於テ租税自然ノ増加ニ大小異同アルハ素ヨリ自然ノ常勢ナリ

此自然ノ増加ニ依テ英國ニ於テハ紙税石鹼税硝子税煉瓦税鹽税砂糖

税ヲ廢シ巨數ノ物品ニ關稅ヲ課スルヲ止メ印紙税ヲ改正シタル等枚舉スヘキ者少ナカラス

歳入税ハ本文ノ改正ヲ補助シタルコト頗ル大ナリ然レトモ租税自然ノ増加カ此改正ニカアルハ遙々大ナリトス如何トナレハ近年歳入税ニ由テ徵收スル所ノ者ハ僅ニ一億乃至一億五千萬フランクニ過キサレハナリ

是故ニ英國ニ於テハ方今蒸酒及麥酒ノ外製造品ニ税スル者ナク飲料品及煙草ノ外一般ノ消費品ニ税スル者アルヲ見サルナリ

租税ノ事ニ關スル一ノ要點ハ一般負擔ノ輾轉是ナリ抑モ租税ハ多少歲月ヲ經過スル時ハ遂々實際ニ之ヲ負擔スル者ヲ變スルニ至ルヘシ實地ノ成績ニ由テ之ヲ考ルニ舊置ノ租税ハ其效驗新設ノ時ニ於ルト同一ナル者ニアラス例ヘハ助産ニ租税ヲ課スル時ハ其之ヲ負擔スル

者ハ當時ノ所有者ニシテ當時ノ所有者ハ其稅額ニ當ル歲入ヲ損シ又内國普通利子ノ割合ニ據リ此稅額ヲ資本ニ積算シタル額ニ均キ資本ヲ失フヘシ然レトモ多少歲月ヲ經過スル後ハ新ニ生スル動産ニ於テハ(假令悉ク然ラサルモ新ニ發セラル、負債証書ニ於テハ)此稅額ヲ負擔スル者ハ應募者ニアラスシテ其証書ヲ發行スル所ノ會社若クハ事業ニアルヘシ若シ勞銀若クハ一般ノ消費品ニ稅額ヲ課スル時ハ(一般ノ消費品ニ稅額ヲ課スルハ其結果勞銀ニ課スルト同シ其始メ之ヲ負擔スル者ハ勞力者ナルヘシ然ルニ久キヲ經レハ多クハ之ヲ使役者ニ讓リ使役者ハ又此負擔ヲ以テ消費者ニ課スヘシ製造家若クハ商賈ニ稅額ヲ課スル時ハ其一般ノ費用ヲ増加シ其始メハ此輩ノ利益ヲ減縮スヘシ然ルニ若シ之カ爲メニ利益ヲ減シテ損失ノ危險ヲ償フニ足ラサルハ漸次其營業ヲ廢スルニ至ルヘク遂ニ其課セラレタル稅額ノ

大部分ヲ以テ消費者ニ拂ハシムルニ至ルヘシ只右ノ如ク負擔ヲ轉セサル者ハ地租讓與稅及他ノ例外ノ諸稅トス此ノ如ク舊社會ニ於テハ久ク已ニ行ハル所ノ諸稅ヲ集合レタル一種ノ稅アリテ人カヲ須ヒスレテ使用ノ歩合ニ應レ各個人ニ分配セラレ是故ニ已ニ行ハル、所ノ稅法ニ於テハ其效驗タル未タ嘗テ外形ニ於ルカ如ク不平均ナラサルナリ某ノ稅ヲ拂フ者ハ某級ノ人民ナルヲ以テ之ヲ負擔スル者ハ某級ノ人民ナルヘシト思フモ實際ニ於テハ巨數ノ他ノ人民ヨリ知ラスシテ之ヲ拂フニ至ル夫レ社會ハ屈伸自在ノ一生物タリ歲月ヲ與フレハ其課セラレタル負擔ヲ以テ自ラ之ヲ其總機關ニ配賦シ其力ニ比例セシメテ違ハサルナリ

租稅ノ負擔轉レテ一般ノ社會ニ歸スヘキノ顯象辨明セラレテ此ニ學理上一ノ眞理ヲ得タリト云フヘシ實ニ租稅ノ不平均ハ社會上ノ屈

伸力ノ整理質トニ依テ自然ニ修正セラレ敷多ノ租税ノ不平均ハ敢テ
 喜憂ト羨嫉ヲ生スルニ足ラサルハ聊カ心志ヲ慰安スル者ト云フヘレ
 然ト雖モ此顯象ノ働キヲ見認ルヲ過大ナラサルヲ要ス殊ニ方今ニア
 リテハ此輾轉ノ働キ往時ノ如ク十分ナラサルヲアルヲ忘ルヘカラス
 實ニ方今ノ國民ハ孤立ニアラス廣ク國境ヲ開ヒテ外國ノ生産品ヲ容
 レ外國ノ勞力者ハ國內ニ來ルヲ得ヘク資本モ亦人民ト均ク外國ヨリ
 移入スヘク又或ハ外國へ輸出スルヲ得ヘシ此景況ハ關稅法ノ改良通
 信運搬ノ進歩ヨリ生スル所ノ者ニシテ租稅負擔ノ輾轉シテ全社會ニ
 普及スルヲ妨ク多少此顯象ヲシテ完全ナル能ハサラシムルモノナリ
 例ヘハ若シ工業家若クハ商賈ニ課スルニ特別ノ租稅ヲ以テセハ此輩
 ハ之ヲ以テ消費者ニ負擔セシムルノ困難ナルヲ覺ユヘシ如何トナレ
 ハ外國品ノ來リテ競争スヘキ者アルヲ以テナリ若シ勞力者ニ特別ノ

稅ヲ課スルモ若クハ一般ノ消費品ニ特別ノ稅ヲ課スルモ(一般ノ消費
 品ニ租稅ヲ課スルハ勞力者ニ租稅ヲ課スルニ同シ)勞力者ハ此負擔ヲ
 以テ使役者若クハ消費者ニ讓ルノ困難ナルヲ覺ユヘシ如何トナレハ
 租稅ノ割合ニ勞銀ヲ増加スレハ內國生産品ノ原價騰貴シテ外國品ト
 競争スル能ハサルニ至ルヘケレハナリ加之ナラス假令無上ノ保護政
 策ヲ施行スル國ト雖モ其國生産品ノ一大部分ハ輸出ニ供セラルハ、ヲ
 以テ(佛國ニ於テハ毎年製造品ノ價格二十億フランクナル者ヲ輸出ス)
 生産者ニテモ勞力者ニテモ使役者ニテモ如何シテ内地ノ租稅ヲ以テ
 外國ノ消費者ニ負擔セシメンカ甚ク困難ナルヘシ
 斯ノ如ク特別ノ租稅ハ輾轉シテ遂ニ一般社會ノ負擔トナルヘキ顯象
 ヲ辨明スルヲ得ヘシト雖モ其效驗ハ完全ナラス加ルニ敷多ノ歲月ヲ
 要スル者ナリ是等ノ論點ニ據テ之ヲ見レハ租稅負擔ノ輾轉ハ決シテ

被稅者ノ財力ニ比例セサル租稅ヲ設置スルヲ當然トスルニ足ラス又之ヲ恕スルノ口實トナスニ足ラス只其不平均ナル租稅カ舊時ノ設備ニ係ル者ニシテ大不便ナキ者ヲ保持スルノ口實トナスニ過キサルナリ若シ勞力者勞銀ノ増加ニ由テ租稅ノ償ヲ得ヘシトノ口實ヲ以テ一般ノ消費品ニ租稅ヲ課シ若クハ工業家商賈ハ負擔ヲ消費者ニ讓ルヲ得ヘシトノ考ヲ以テ工業商業ニ過重ノ稅ヲ課セハ現ニ人民ノ或ル級ヲ苦シメ後日ニ徐々トシテ其辛苦ヲ減シ若クハ償ヲ得ルモ遂ニ完全ナラサル所ノ效驗ヲ期望スル者ト云フヘシ凡ソ一國ニアリテハ誤謬ノ修正ヲ以テ自然ノ力ニ托スヘキモノニアラサルナリ故ニ其行フヲ得ヘキ時ニ方テハ其改正ヲ躊躇スベカラス市邑入市稅及飲料稅ノ如キハ假令或ル勞銀ノ増加ニ由テ多少勞力者ノ負擔ヲ償フ者アリト云フヲ得ヘキモ該稅ヲ廢止シ若クハ之ヲ輕減スルニ當テハ決シテ狐疑

猶豫ヲナスヘカラス

租稅ノ負擔ハ如何ニ國民諸級ノ間ニ配賦セラレハヤヲ攻究スルハ一ノ有益ナル論題ナリ加ルニ此論題タル頗ル繞密ナル者トナス如何トナレハ數種ノ租稅中商品ノ運搬稅印紙稅ノ如キ社會ノ諸級ニ分賦シテ之ヲ見ルコトノ難キ者少ナカラサレハナリ故ニ只其全面ヨリ觀察ヲ下シテ之ヲ言ヘハ佛國ニ於テハ租稅ヲ負擔スルコト最モ大ナル者ハ市府ノ勞力者ニシテ之ニ反シ其最モ負擔ノ輕キ者ハ大小ノ土地ヲ有シ其消費ノ一部分ヲ所有地ノ收穫ニ取ル所ノ村落ノ居民トナス彼ノ葡萄酒林檎酒ノ如キ自ラ生産シテ消費スル者ノ租稅ヲ免除セラルハ吾人ノ知ル所ナリ是等ノ地主ハ僅ニ地租舊政ノ時土地ノ負擔セシ所ノ者ニ比スレハ其輕重霄壤ノ異アリ人頭及動產稅村落ニ於テハ甚タ輕ク門窓稅道路ノ爲メニスル賦役稅砂糖咖啡ノ如キ驕奢品ノ消費高

ニ應スル租税其他商品ノ運搬税印紙税等一般ノ租税ニシテ負擔スル所幾分ナルヲ知ル能ハサル者ニ過キス其他佛國ニ於テ租税ノ負擔最モ輕キ者ハ巨額ノ公債証書ヲ有シ巨大ノ家賃ヲ要セス豪奢ニ耽ラサル所ノ富民トナス

一國人民カ租税ノ負擔ニ堪フヘキ制限ハ觀察ヲ以テ指示スルヲ得ヘキヤ否ヤヲ尋ルニ敢テ能シ難キヲニアラサルヘシ抑モ租税ノ負擔重キニ過ル時ハ國勢衰敗シ居民減少シ耕殖廢頽シ資本外移スヘシ是レ往時西班牙及荷蘭ニ於テ見ル所ニシテ現ニ土耳其ニ於テ最モ著明ナリ然ラハ則チ租税ニ制限アル者ニシテ此域ニ達スルルハ一國ノ經濟上社會上政治上ノ秩序忽チ敗壞スヘシ然ルニ此制限ハ如何ナル者ナルヤハ豫メ理ヲ以テ論スヘカラス其國ノ貧富人民ノ習俗耐忍力ニ由リ國ニ依リテ異ナリ時代ニ依テ異ナリ故ニ此國ニ於テハ苦情モナク

民力ヲ損セシテ國稅地方稅トシテ人民歲入ノ一割二分若クハ一割五分ヲ徵スルヲ得ヘキモ彼國ニ於テハ七分若クハ八分ノ租税ニシテ已ニ其重キニ堪ヘサルモノアルヘシ佛國ニ於テハ方今國稅地方稅ヲ合セテ大約三十五億フランクニ達ス而シテ概測ニ據レハ全國民ノ歲入ハ惣テ二百億フランクヲ下ラス二百五十億フランクヲ上ラスト云フ然ラハ則チ佛國人民カ中央政府及地方政府ニ拂フ所ノ者ハ其歲入ノ一割五分若クハ一割六分ニ當ル者ト云フヘキナリ

租稅徵收ノ規則方法ニ至テハ余輩ハ此ニ攻究セサルヘシ是學理上ノ問題ニアラスシテ寧ロ經驗ト術トノ論題ナレハナリ只此ニ一言ヲ要スルハ請負徵收ノ方法はナリ元來請負徵收ハ或ル格段ナル者ノ利益ノ爲メニ國民ヲ抑壓スルモノニシテ人民ノ憤懣ヲ招キ嫌惡ノ情ヲ盛ニスルヲ以テ頗ル厭フヘキモノトス只一時或ハ特別ノ稅ニ於テ行政

ノ不完全ナル國ニ行フハ尙ホ怨スルヲ得ヘシ例ヘハ以太利ニ於テ烟
草稅ヲ請負徵收トナシタル如キハ良好ノ結果ヲ得タリ該國ノ烟草稅
請負徵收ハ眞ノ特占營業ヲ以テ行フ者タルヲ忘ルヘカラス佛國ニ於
テ摺附木稅ノ場合ニ於テ舊時ノ請負徵收方法ノ再現セルヲ見テ人民
ノ憤懣ヲ發シタルコアリ
本書ノ第一卷ニ論究セル所ノ者ヲ約言スレハ第一一國カ巨額ノ負債
ヲ有レ而シテ巨萬ノ軍隊ヲ備ヘント欲スルニ當テハ或ル間稅ヲ行フ
ハ止ヲ得サルナリ第二運轉生産ヲ妨ル所ノ租稅廢止ヲ促シ直稅ヲ改
良完備セサルヘカラス第三佛國ヲシテ鹽葡萄酒ノ如キ普通ノ消費品
ニ課スル所ノ租稅ヲ漸廢レ記錄稅ノ不平均有害ナル者ヲ改正セシム
ルヲ得ヘキハ租稅收入自然ノ増加ニアリ然レトモ此大事業ヲ成サン
ト欲セハ須ラク二十五年ノ平和ト經費ノ節儉ヲ要スヘント云フニア

リ
歐洲西部ノ諸國殊ニ佛國ハ五十年以降民富ヲ増殖セシコ實ニ大ナリ
トス然ルニ不幸ニシテ數々政治上ノ失舉アリテ變亂戰爭ノ爲メニ其
富ヲ消費セシコ少ナカラス若シ將來此不幸ノ因ヲ除クヲ得ハ國家經
濟ノ景况次ヲ逐テ改進セン然ラハ則チ後世子孫ハ勞セスレテ吾人ノ
建設シタル有益ナル土功即チ鐵道掘割道路海港等ノ利ヲ占有シ民富
ハ發達シテ止マス中央政府及市府ノ作業上財務上ノ財產ハ大ニ増加
スルニ至リ果シテ平和ヲ維持スルヲ得ハ公衆ノ負擔日ニ月ニ輕減ス
ルニ至ラン

余輩ハ千九百五十年以後鐵道線ヲ以テ公有財產ニ列スルヲ得ヘシ
トナス市府ニ於テ允可シタル用水瓦斯等ノ市有トナルヘキ期限ハ
多少此ヨリ速カナルヘシ之ヲ以テ余輩ハ本卷ニ於テ作業上財務上

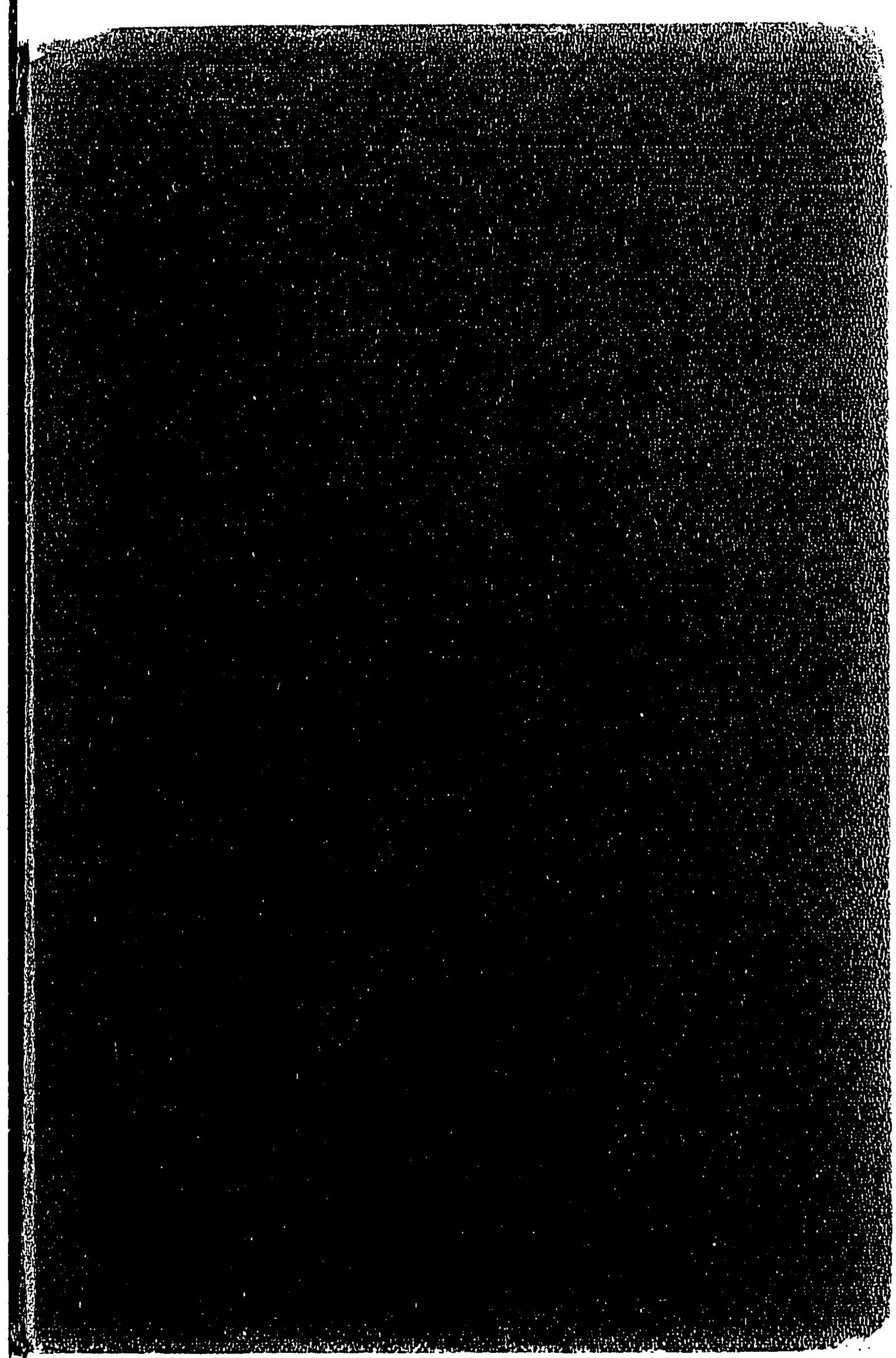
ノ財産ハ國有市有共ニ第二十世紀ニ於テ大ニ増加スヘキヲ辨セリ
租税ノ改正ヲ行フニ必要ナル情件トスルハ平和ニアリ若シ平和ニシ
テ期スヘカラサレハ意ヲ經濟上ノ規則ニ注グモノナクハナリ千八
百七十九年ノ始ニ當リ諸國ノ中英國ノ税法最モ整頓シ不平均最モ少
ナキ所以ノモノハ獨リ大藏長官ノ聰明英智ナルニ由ルニアラス又五
十年以降一ニ外患ヲ避ケ平和ヲ維持シタル功果ト云フヘキナリ若シ
佛國ニ於テ果シテ此必要ナル二者即チ時日ト平和ノ助ヲ得ハ租税ノ
改正ヲ行フヲ敢テ難キニアラサルナリ

租税論第四册大尾

明治十九年五月廿八日出板^{發行}届

34
86





圖書集成
醫部全錄
卷之八
六
三
四
冊

